

Oracle® InfiniBand Switch IS2-46 設置ガイド

ORACLE®

Part No: E75976-01
2016年9月

Part No: E75976-01

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	9
製品ドキュメントライブラリ	9
フィードバック	9
スイッチの理解	11
設置タスクの概要	11
スイッチの概要	13
フロントパネルのコンポーネント	14
背面パネルのコンポーネント	15
仕様の確認	17
物理仕様	17
電気仕様	18
環境仕様	18
通気に関する注意事項	19
ラックの互換性	20
ラックに関する注意事項	20
設置の準備	23
出荷用キット	24
▼ MAC ID の記録	25
▼ SP および SCP への DHCP 経由での IP アドレスの割り当て	26
取り扱いに関する注意事項	27
ESD に関する注意事項	27
取り付け工具	28
スイッチの設置	29
▼ ラックの固定	29
▼ スwitchの留め具の取り付け	30
▼ ケーブル管理エクステンダの組み立て	32

▼ エアダクト構成部品の準備	33
▼ ケージナットの取り付け	35
▼ ラックマウントハードウェアを取り付ける	37
▼ 電源コードの配線	38
▼ SER MGT ケーブルの配線	39
▼ スイッチの設置	40
▼ CMB の取り付け	45
ケーブルの接続	49
ケーブルの要件	49
標準 MT ケーブルおよび PrizmMT ケーブル	50
ケーブルに関する注意事項	52
▼ SFP+ ケーブルの組み立て	54
▼ ケーブルの配線	56
▼ RJ-45 Ethernet ケーブルの接続	57
▼ PrizmMT ケーブルの接続	58
▼ SFP+ ケーブルの接続	60
▼ CMB へのケーブルの固定	62
スイッチの電源投入	67
▼ 電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す	68
▼ SER MGT ケーブルの接続	71
▼ SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続	74
▼ 電源コードの接続	74
▼ エアダクト構成部品の取り付け	76
▼ スイッチの電源投入	78
▼ SP へのログイン (SER MGT)	79
▼ SP への静的 IP アドレスの割り当て	80
▼ SCP への静的 IP アドレスの割り当て	82
▼ SP へのログイン (ネットワーク管理)	84
機能の検証	87
▼ LED ステータスの確認	87
LED ステータス	88
▼ スイッチが動作可能であることの確認	89
▼ 接続の検証	91
▼ Oracle Fabric Manager インタフェースへのログイン	94
▼ Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン	95
▼ Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行	96

Oracle Fabric OS 構成ウィザードのパラメータ	97
用語集	99
索引	107

このドキュメントの使用方法

- **概要** – Oracle InfiniBand Switch IS2-46 を準備および設置する方法について説明します。
- **対象読者** – 設置者、技術者、システム管理者、および認定サービスプロバイダ。
- **必要な知識** – ネットワークハードウェアの設置に関する豊富な経験。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは <http://www.oracle.com/goto/is2-46/docs> で入手可能です。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

スイッチの理解

これらのトピックでは、スイッチおよび設置のプロセスについて説明します。

- [11 ページの「設置タスクの概要」](#)
- [13 ページの「スイッチの概要」](#)
- [14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)
- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)

関連情報

- [17 ページの「仕様の確認」](#)
- [23 ページの「設置の準備」](#)
- [29 ページの「スイッチの設置」](#)
- [49 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [67 ページの「スイッチの電源投入」](#)
- [87 ページの「機能の検証」](#)

設置タスクの概要

SER MGT の常時接続とは SER MGT ポートへの永続的なシリアル接続があることであり、スイッチの管理に使用されます。一時的な SER MGT 接続とは、SER MGT ポートがスイッチの設置およびネットワーク管理の構成のためにのみ使用されることを指します。そのあとはネットワーク管理を使用してスイッチを管理します。設置タスクの概要は、両方の接続タイプに対応しており、設置の順序が異なる場合は説明を加えています。

手順	説明	リンク
1.	スイッチの前面および背面について理解します。	<ul style="list-style-type: none">■ 14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」■ 15 ページの「背面パネルのコンポーネント」
2.	供給される電力および環境要因を確認します。	<ul style="list-style-type: none">■ 17 ページの「物理仕様」■ 18 ページの「電気仕様」■ 18 ページの「環境仕様」

設置タスクの概要

手順	説明	リンク
3.	通気特性およびラックに関する注意事項について理解します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 ページの「通気に関する注意事項」 ■ 20 ページの「ラックの互換性」 ■ 20 ページの「ラックに関する注意事項」
4.	梱包されているコンポーネントおよびアクセサリを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 ページの「出荷用キット」
5.	MAC ID を記録します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 25 ページの「MAC ID の記録」
6.	SP および SCP に DHCP で特定の IP アドレスを割り当てるようにする場合は、DHCP サーバーを構成します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 26 ページの「SP および SCP への DHCP 経由での IP アドレスの割り当て」
7.	取り扱いと ESD 注意事項に注意します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 27 ページの「取り扱いに関する注意事項」 ■ 27 ページの「ESD に関する注意事項」
8.	適切な工具を用意します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 28 ページの「取り付け工具」
9.	スイッチをラックに取り付けます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 29 ページの「スイッチの設置」
10.	ケーブルの要件および注意事項について理解します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 49 ページの「ケーブルの要件」 ■ 50 ページの「標準 MT ケーブルおよび PrizmMT ケーブル」 ■ 52 ページの「ケーブルに関する注意事項」
11.	必要な場合は、光データケーブルを組み立てます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 54 ページの「SFP+ ケーブルの組み立て」
12.	データケーブルを配線します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 56 ページの「ケーブルの配線」
13.	データケーブルを接続し、ケーブル管理留め具 (CMB) に固定します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 57 ページの「RJ-45 Ethernet ケーブルの接続」 ■ 58 ページの「PrizmMT ケーブルの接続」 ■ 60 ページの「SFP+ ケーブルの接続」 ■ 62 ページの「CMB へのケーブルの固定」
14.	電源コードと SER MGT ケーブルを引き出します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 68 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」
15.	シリアル管理デバイスを接続します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 ページの「SER MGT ケーブルの接続」 ■ 74 ページの「SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続」
16.	電源コードを接続します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 74 ページの「電源コードの接続」
17.	SER MGT の常時接続がある場合は、エアダクトを取り付けます。一時的な SER MGT 接続がある場合は、代わりに手順 15 に進みます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 76 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」
18.	スイッチの電源を投入します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 78 ページの「スイッチの電源投入」
19.	サービスプロセッサ (SP) にログインします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 ページの「SP へのログイン (SER MGT)」 ■ 80 ページの「SP への静的 IP アドレスの割り当て」 ■ 82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」 ■ 84 ページの「SP へのログイン (ネットワーク管理)」
20.	一時的な SER MGT 接続がある場合は、エアダクトを取り付けます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 76 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」
21.	スイッチの機能を確認します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 87 ページの「LED ステータスの確認」 ■ 89 ページの「スイッチが動作可能であることの確認」 ■ 91 ページの「接続の検証」

手順	説明	リンク
22.	スイッチを管理します。	<ul style="list-style-type: none">■ 94 ページの「Oracle Fabric Manager インタフェースへのログイン」■ 95 ページの「Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン」■ 96 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行」

関連情報

- [13 ページの「スイッチの概要」](#)
- [14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)
- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)

スイッチの概要



スイッチは、高パフォーマンスのエンタープライズクラウドに配備されるサーバーおよびストレージシステムのスイッチングインフラストラクチャーを統合および仮想化する、完全なアクセスの切り替えおよび I/O のプラットフォームです。

このスイッチには、EDR 速度をサポートする最大 38 個の 4x IB ポートが備わっています。また、10 個の 10GbE ポートと 24 個の 1GBASE-T ポートによって、ネットワーク機能とゲートウェイ機能の両方が提供されます。

最適化された専用で個別のオンボード SP、ABD、および SCP では、使いやすい CLI および GUI を使用して、シャーシ機能、Ethernet トラフィック、および IB ファブリックをそれぞれ管理します。

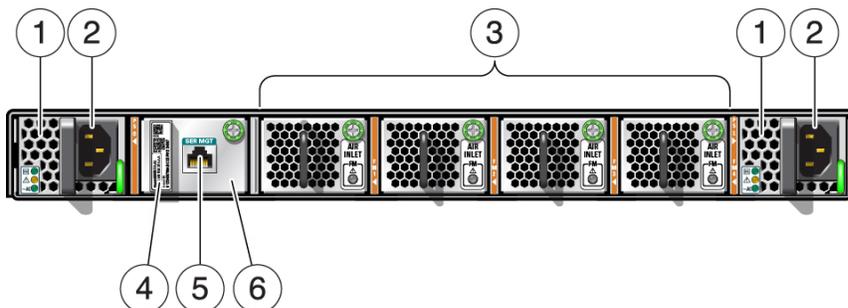
スイッチは、DHCP を使用したネットワーク管理のために事前構成されて出荷されています。ただし、このドキュメントの手順では、静的 IP アドレスを構成する手順を使用したシリアル管理に重点を置いています。

関連情報

- [11 ページの「設置タスクの概要」](#)
- [14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)
- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)

フロントパネルのコンポーネント

フロントパネルはスイッチのファンおよび電源装置がある側です。スイッチのこちら側は涼しい通路に取り付けます。



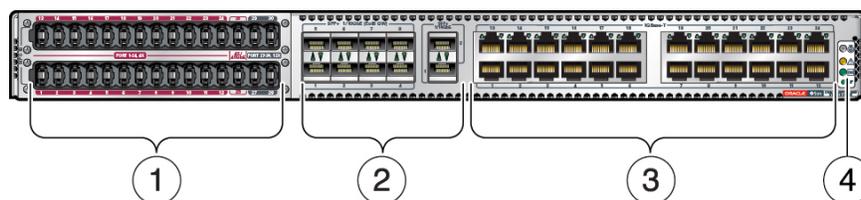
番号	説明
1	電源装置
2	電源コードのコンセント
3	ファンモジュール
4	RFID タグ
5	SER MGT ポート
6	SER MGT モジュール (SMM) (内側にバッテリーがあります)

関連情報

- [11 ページの「設置タスクの概要」](#)
- [13 ページの「スイッチの概要」](#)
- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)

背面パネルのコンポーネント

背面パネルはスイッチのデータケーブルを接続する側です。スイッチのこちら側は暖かい通路に取り付けます。



番号	説明
1	PrizmMT コネクタ: <ul style="list-style-type: none"> ■ ポート 1 - 24 - IB 4x (マゼンタ色のハウジング) ■ ポート 25 および 26 - IB 4x または 10GbE (マゼンタ色のハウジング) ■ ポート 27 - 30 - IB 12x (黒色のハウジング)
2	SFP+ コネクタ <ul style="list-style-type: none"> ■ ポート 1 - 8 (左) - 10GbE Ethernet オーバーレイネットワーク (IB スイッチチップ) ■ ポート 1 および 2 (右) - 10GbE ネットワーク管理アップリンク (Ethernet スイッチチップ) <p>注記 - 1 および 2 のラベルが付けられている右端の 2 つのコネクタは、ネットワーク管理に使用することもできます。</p>
3	RJ-45 コネクタ - これらのコネクタのいずれかをネットワーク管理に使用できます。
4	シャーシステータス LED

関連情報

- [11 ページの「設置タスクの概要」](#)
- [13 ページの「スイッチの概要」](#)
- [14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)

仕様の確認

これらのトピックでは、スイッチの仕様および設置に関連する注意事項について説明します。

- [17 ページの「物理仕様」](#)
- [18 ページの「電気仕様」](#)
- [18 ページの「環境仕様」](#)
- [19 ページの「通気に関する注意事項」](#)
- [20 ページの「ラックの互換性」](#)
- [20 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

関連情報

- [11 ページの「スイッチの理解」](#)
- [23 ページの「設置の準備」](#)
- [29 ページの「スイッチの設置」](#)
- [49 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [67 ページの「スイッチの電源投入」](#)
- [87 ページの「機能の検証」](#)

物理仕様

寸法	メートル法	米国
RU	1	1
幅	445.0 mm	17.52 インチ
奥行き	609.6 mm	24 インチ
高さ	44.5 mm	1.75 インチ
重量	11.4 kg	23.0 lbs

関連情報

- [18 ページの「電気仕様」](#)
- [18 ページの「環境仕様」](#)
- [19 ページの「通気に関する注意事項」](#)
- [20 ページの「ラックの互換性」](#)
- [20 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

電気仕様

パラメータ	AC の要件
電圧	100 VAC - 240 VAC 単相、47 - 63 Hz
電流 (入力当たり)	100 VAC で入力当たり最大 5.4A
電流 (合計)	100 VAC ですべての入力の合計が最大 5.6A
電力	550W (合計入力電力は稼働している電源装置間でおおよそ均等に分割されます。)

関連情報

- [17 ページの「物理仕様」](#)
- [18 ページの「環境仕様」](#)
- [19 ページの「通気に関する注意事項」](#)
- [20 ページの「ラックの互換性」](#)
- [20 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

環境仕様

パラメータ	メートル法	米国表記
温度	5 - 35°C	41 - 95°F
湿度	5 - 85% 結露なし、最大湿球温度 27°C	5 - 85% 結露なし、最大湿球温度 80°F
高度 (Oracle の要件)	40°C で最高 3000 m	104°F で最高 9840 フィート

関連情報

- [17 ページの「物理仕様」](#)

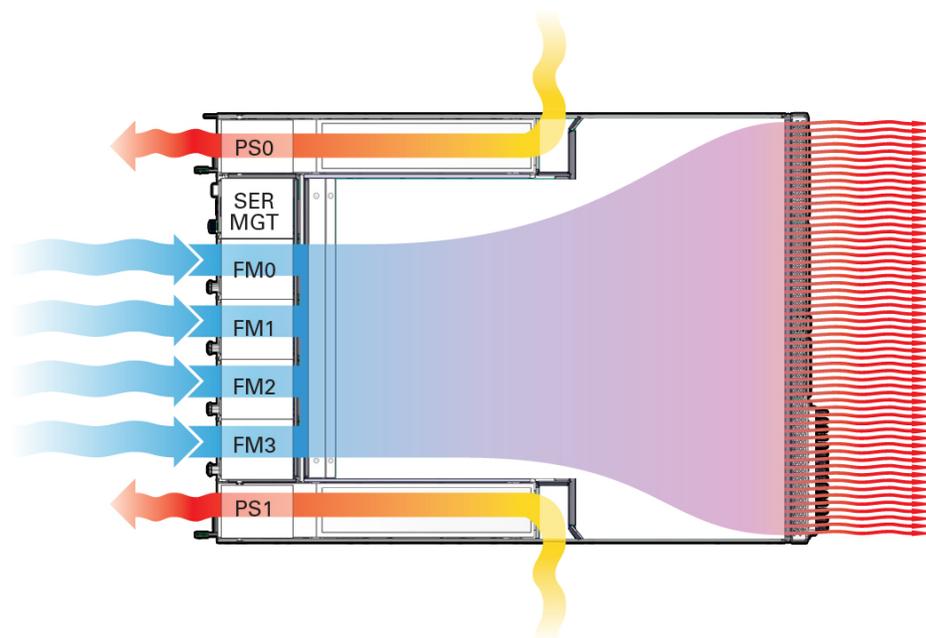
- 18 ページの「電気仕様」
- 19 ページの「通気に関する注意事項」
- 20 ページの「ラックの互換性」
- 20 ページの「ラックに関する注意事項」

通気に関する注意事項



注意 - スイッチの内部温度を安全な動作範囲内に保つためには、適度な通気が不可欠です。

空気はスイッチの前面 (ファン側) からスイッチの背面 (コネクタ側) に流れます。空気はスイッチの両側から電源装置を通して前面に排気されます。



これらのガイドラインに従って、スイッチ内の通気が妨げられないようにします。

- スイッチは前面が涼しい通路、背面が暖かい通路に面するように設置してください。
- 暖気をスイッチに向けないでください。
- ラックまたはキャビネット内で空気が再循環しないようしてください。

- スイッチを保守したあとは、エアダクト構成部品が正しく取り付けられていることを確認します。
- ケーブルが通気を妨げないように配線します。
- エアダクト構成部品はスイッチの前面に取り付けます。

関連情報

- [17 ページの「物理仕様」](#)
- [18 ページの「電気仕様」](#)
- [18 ページの「環境仕様」](#)
- [20 ページの「ラックの互換性」](#)
- [20 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

ラックの互換性

このスイッチおよびラックマウントハードウェアは、Sun Rack II あるいは互換性のあるラックまたはキャビネットに設置するように設計されています。スイッチは、Oracle ラックマウント型コンピューティング製品より短いフォームファクタとなっています。ラックの前面ドアとスイッチのフロントパネルの間には隙間があります。通気を適切に管理するため、およびラック内での空気の再循環を最小限にするために、スイッチの前面にエアダクト構成部品を取り付けます。

関連情報

- [17 ページの「物理仕様」](#)
- [18 ページの「電気仕様」](#)
- [18 ページの「環境仕様」](#)
- [19 ページの「通気に関する注意事項」](#)
- [20 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

ラックに関する注意事項



注意 - 装置の搭載。 ラックの上部が重くなって倒れないように、必ずラックの下から上に装置を配置します。装置の取り付け時にラックが転倒しないように、ラックの転倒防止脚を伸ばします。



注意 - 動作時周辺温度の上昇。 密閉されたラック構成部品またはマルチユニットのラック構成部品にスイッチを設置している場合、ラック環境の動作時周辺温度が室内の周辺温度より高くなる場合があります。したがって装置は、スイッチに指定されたTMA に適合する環境内にものみ設置してください。



注意 - 通気の低下。 装置をラックに取り付けて、装置が安全に動作するための十分な通気を得られるようにします。



注意 - 装置の配置。 装置をラックに取り付けて、重量が均等に分散されるようにします。装置の配置が不均等な場合、危険な状態になっている可能性があります。



注意 - 回路の過負荷。 電源装置の回路に過大な電流が流れないようにします。スイッチを電源回路に接続する前に、装置のラベルに示されている定格電力を確認し、回路の過負荷によって過電流保護や装置の配線にどのような影響があるかを検討します。



注意 - 安全な接地。 ラックに搭載する装置は必ず安全に接地します。分岐回路への直接接続以外の電源接続 (電源タップの使用など) の場合は、特に注意してください。



注意 - ラックに搭載した装置をシェルフや作業スペースとして使用しないでください。

関連情報

- [17 ページの「物理仕様」](#)
- [18 ページの「電気仕様」](#)
- [18 ページの「環境仕様」](#)
- [19 ページの「通気に関する注意事項」](#)
- [20 ページの「ラックの互換性」](#)

設置の準備

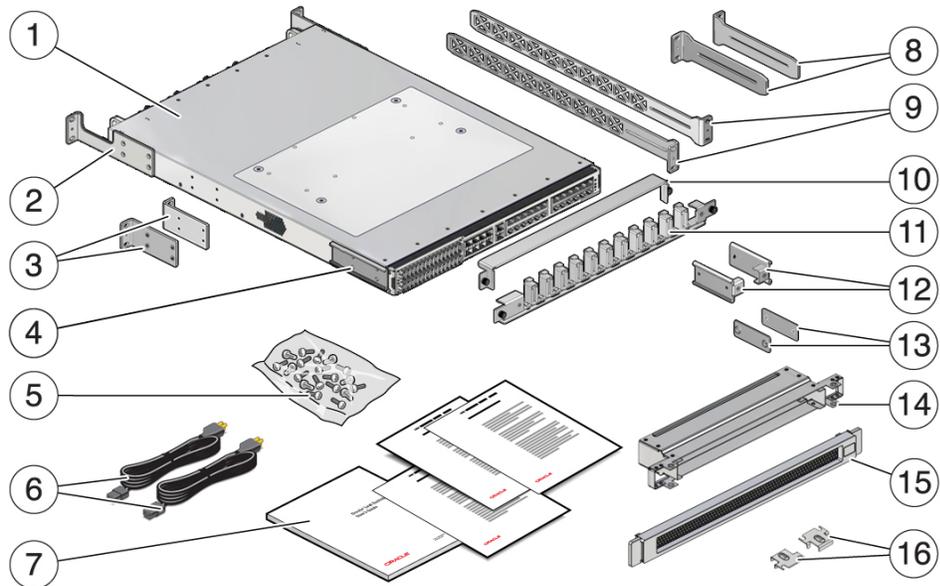
これらのトピックでは、スイッチの設置作業の準備を行うための情報を提供します。

- [24 ページの「出荷用キット」](#)
- [25 ページの「MAC ID の記録」](#)
- [26 ページの「SP および SCP への DHCP 経由での IP アドレスの割り当て」](#)
- [27 ページの「取り扱いに関する注意事項」](#)
- [27 ページの「ESD に関する注意事項」](#)
- [28 ページの「取り付け工具」](#)

関連情報

- [11 ページの「スイッチの理解」](#)
- [17 ページの「仕様の確認」](#)
- [29 ページの「スイッチの設置」](#)
- [49 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [67 ページの「スイッチの電源投入」](#)
- [87 ページの「機能の検証」](#)

出荷用キット



番号	説明
1	スイッチ
2	前側固定部品 (長、取り付けられた状態)
3	前側固定部品 (短)
4	C型チャンネル留め具 (取り付けられた状態)
5	ねじ
6	電源コード
7	ドキュメント
8	ケーブル管理エクステンダ
9	長いレール
10	ケーブル管理カバー
11	ケーブル管理留め具 (CMB)
12	取り付け留め具
13	取り付けプレート
14	エアダクト
15	カバー
16	スナップ留め具

関連情報

- 25 ページの「MAC ID の記録」
- 26 ページの「SP および SCP への DHCP 経由での IP アドレスの割り当て」
- 27 ページの「取り扱いに関する注意事項」
- 27 ページの「ESD に関する注意事項」
- 28 ページの「取り付け工具」

▼ MAC ID の記録

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. 出荷用梱包箱の外側から顧客情報シートを取り外します。
3. 顧客情報シートで、スイッチのシリアル番号を見つけます。
4. そのシリアル番号を、この目的のためのドキュメントに記録します。
5. シートのネットワークインタフェースの表で、プライマリ MAC ID を見つけます。
これは、スイッチ内の SP の MAC ID です。
6. SP MAC ID をドキュメントに記録します。
7. シートのネットワークインタフェースの表で、セカンダリ MAC ID を見つけます。
これは、スイッチ内の SCP の MAC ID です。
8. SCP MAC ID をドキュメントに記録します。
9. 顧客情報シートを安全な場所に保管します。
10. 次の手順を確認します。
 - SP および SCP に DHCP 経由で IP アドレスを割り当てる場合は、ここで DHCP サーバーを構成します。
26 ページの「[SP および SCP への DHCP 経由での IP アドレスの割り当て](#)」を参照してください。
 - SP および SCP に SER MGT ポート経由で静的 IP アドレスを割り当てる場合は、27 ページの「[取り扱いに関する注意事項](#)」に進みます。

関連情報

- [24 ページの「出荷用キット」](#)
- [26 ページの「SP および SCP への DHCP 経由での IP アドレスの割り当て」](#)
- [27 ページの「取り扱いに関する注意事項」](#)
- [27 ページの「ESD に関する注意事項」](#)
- [28 ページの「取り付け工具」](#)

▼ SP および SCP への DHCP 経由での IP アドレスの割り当て

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
[11 ページの「設置タスクの概要」](#)を参照してください。
2. DHCP サーバーにログインし、そのサーバーを、記録した SP MAC ID の事前に定義された IP アドレスとホスト名を割り当てるように構成します。
この IP アドレスとホスト名を将来の参照のために記録します。
3. DHCP サーバーを、記録した SCP MAC ID の事前に定義された IP アドレスとホスト名を割り当てるように構成します。
この IP アドレスとホスト名を将来の参照のために記録します。
スイッチが管理ネットワークに接続され、電源が投入されると、SP および SCP は事前に定義された IP アドレスを受信します。
4. 設置を続行します。
[27 ページの「取り扱いに関する注意事項」](#)を参照してください。

関連情報

- [24 ページの「出荷用キット」](#)
- [25 ページの「MAC ID の記録」](#)
- [27 ページの「取り扱いに関する注意事項」](#)
- [27 ページの「ESD に関する注意事項」](#)
- [28 ページの「取り付け工具」](#)

取り扱いに関する注意事項



注意 - 取り付けを開始する前に、装置ラックに転倒防止脚を設置してください。



注意 - このドキュメント内のタスクを実行しているときに、このスイッチを持ち上げてラックに取り付けるには2人が必要です。



注意 - 2人で行うタスクを実行する際には、各手順の開始前後および作業中に常に意思の疎通を図り、混乱が起こらないようにしてください。

関連情報

- [24 ページの「出荷用キット」](#)
- [25 ページの「MAC ID の記録」](#)
- [26 ページの「SP および SCP への DHCP 経由での IP アドレスの割り当て」](#)
- [27 ページの「ESD に関する注意事項」](#)
- [28 ページの「取り付け工具」](#)

ESD に関する注意事項

スイッチのシャーシを設置するときは、静電気防止に関する注意事項に従います。

- 作業面として静電気防止用マットを使用します。
- マットまたはスイッチシャーシの金属部分に付属している静電気防止用リストストラップを着用します。

関連情報

- [24 ページの「出荷用キット」](#)
- [25 ページの「MAC ID の記録」](#)
- [26 ページの「SP および SCP への DHCP 経由での IP アドレスの割り当て」](#)
- [27 ページの「取り扱いに関する注意事項」](#)
- [28 ページの「取り付け工具」](#)

取り付け工具

これらのツールは、スイッチの設置に必要であるか、役立ちます。

- 静電気防止用リストストラップ
- プラスのねじ回し (Phillips の 2 番)
- プラスのねじ回し (Phillips の 1 番)
- ケージナット取り付け工具またはマイナスのねじ回し
- シリアル端末デバイスおよび必要な配線
- マスキングテープ
- ペーパークリップ
- PrizmMT フェルルクリーナ - US Conec パーツ番号 16899
- 静電気防止用マット
- 懐中電灯
- グローブ

関連情報

- [24 ページの「出荷用キット」](#)
- [25 ページの「MAC ID の記録」](#)
- [26 ページの「SP および SCP への DHCP 経由での IP アドレスの割り当て」](#)
- [27 ページの「取り扱いに関する注意事項」](#)
- [27 ページの「ESD に関する注意事項」](#)

スイッチの設置

これらのタスクを表示されている順序で実行して、スイッチを設置します。

- 29 ページの「ラックの固定」
- 30 ページの「スイッチの留め具の取り付け」
- 32 ページの「ケーブル管理エクステンダの組み立て」
- 33 ページの「エアダクト構成部品の準備」
- 35 ページの「ケージナットの取り付け」
- 37 ページの「ラックマウントハードウェアを取り付ける」
- 38 ページの「電源コードの配線」
- 39 ページの「SER MGT ケーブルの配線」
- 40 ページの「スイッチの設置」
- 45 ページの「CMB の取り付け」

関連情報

- 11 ページの「スイッチの理解」
- 17 ページの「仕様の確認」
- 23 ページの「設置の準備」
- 49 ページの「ケーブルの接続」
- 67 ページの「スイッチの電源投入」
- 87 ページの「機能の検証」

▼ ラックの固定



注意 - 作業員が負傷する危険性を低減するために、ラックを固定し、すべての転倒防止装置を伸ばしてから、スイッチを取り付けます。

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。

11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。

2. ラックの前面ドアと背面ドアを開いて取り外します。
3. 横転を防ぐための平行調整脚がラックの下部にある場合は、調整脚を床まで完全に伸ばします。
4. ラックの転倒防止脚または転倒防止バーを完全に伸ばします。これらは、ラックの前面の下にあります。
5. 固定部品をスイッチに取り付けます。
30 ページの「[スイッチの留め具の取り付け](#)」を参照してください。

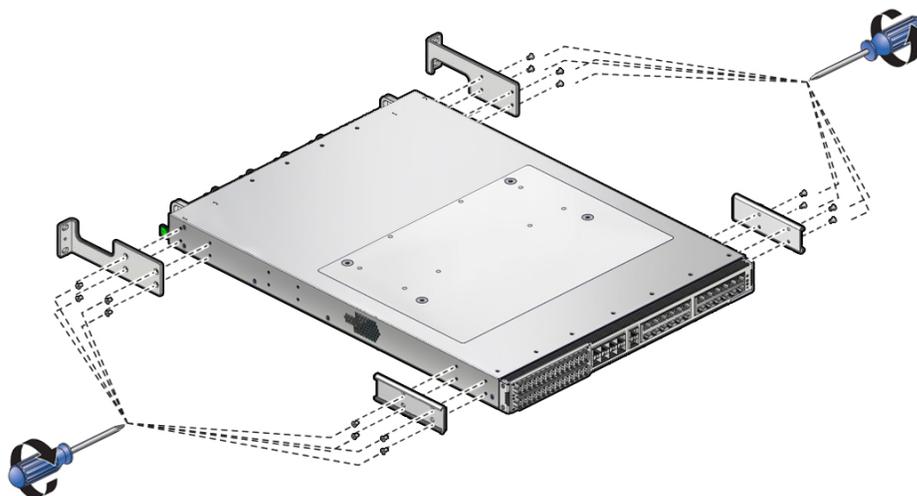
関連情報

- 30 ページの「[スイッチの留め具の取り付け](#)」
- 32 ページの「[ケーブル管理エクステンダの組み立て](#)」
- 33 ページの「[エアダクト構成部品の準備](#)」
- 35 ページの「[ケージナットの取り付け](#)」
- 37 ページの「[ラックマウントハードウェアを取り付ける](#)」
- 38 ページの「[電源コードの配線](#)」
- 39 ページの「[SER MGT ケーブルの配線](#)」
- 40 ページの「[スイッチの設置](#)」
- 45 ページの「[CMB の取り付け](#)」

▼ スイッチの留め具の取り付け

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. プラスのねじ回し (Phillips の 1 番) を使用して、長い前面留め具 (切り欠きあり) を各側に 4 本の M3x6 平頭ねじを使用してスイッチの前面に取り付けます。

長い前面固定部品のフランジがスイッチの外側を向くようにします。



3. C型チャンネル留め具を各側に4本のM3x6平頭ねじを使用してスイッチに取り付けます。
各C型チャンネル留め具の端がシャーシの背面からでないようにします。
4. ケーブル管理エクステンダを組み立てます。
[32ページの「ケーブル管理エクステンダの組み立て」](#)を参照してください。

関連情報

- [29ページの「ラックの固定」](#)
- [32ページの「ケーブル管理エクステンダの組み立て」](#)
- [33ページの「エアダクト構成部品の準備」](#)
- [35ページの「ケージナットの取り付け」](#)
- [37ページの「ラックマウントハードウェアを取り付ける」](#)
- [38ページの「電源コードの配線」](#)
- [39ページの「SER MGT ケーブルの配線」](#)
- [40ページの「スイッチの設置」](#)
- [45ページの「CMBの取り付け」](#)

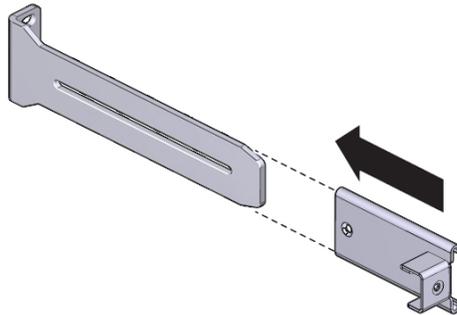
▼ ケーブル管理エクステンダの組み立て

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。

11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。

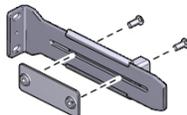
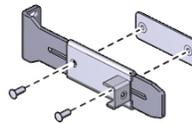
2. 留め具の爪がエクステンダのフランジの逆側になるように、取り付け留め具をエクステンダにスライドさせます。

爪の開いている側をフランジに向けます。爪の平らな側をエクステンダの後方に向けます。



3. エクステンダのフランジ側に取り付けプレートを置きます (取り付け留め具の逆側)。

4. 2本の M4x10 平頭ねじを使用して、フランジからもっとも遠い位置で取り付け留め具とプレートでエクステンダを挟みます。



5. プラスのねじ回し (Phillips の 1 番) を使用して、2本のねじを締め付けます。

6. ほかのケーブル管理エクステンダについて、[ステップ 2](#) から [ステップ 5](#) を繰り返します。
7. エアダクト構成部品を準備します。
[33 ページの「エアダクト構成部品の準備」](#) を参照してください。

関連情報

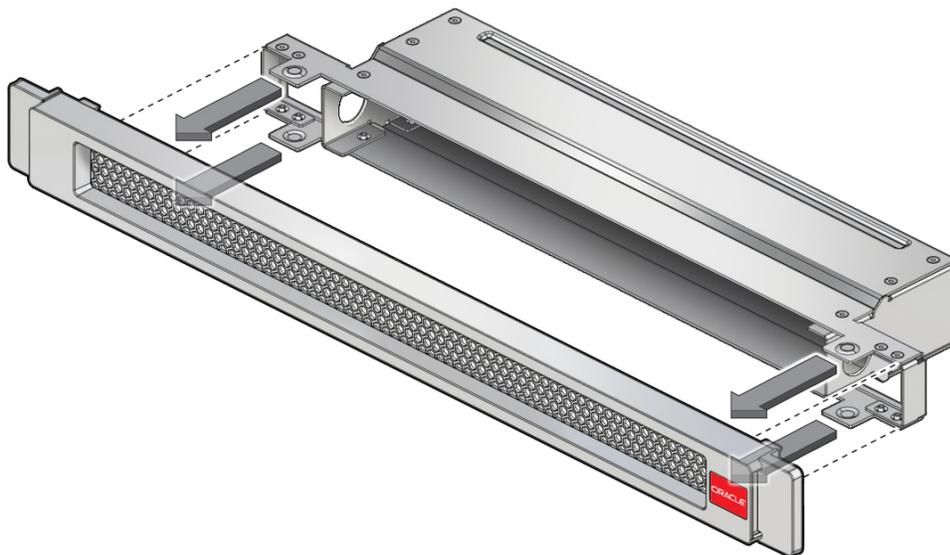
- [29 ページの「ラックの固定」](#)
- [30 ページの「スイッチの留め具の取り付け」](#)
- [33 ページの「エアダクト構成部品の準備」](#)
- [35 ページの「ケージナットの取り付け」](#)
- [37 ページの「ラックマウントハードウェアを取り付ける」](#)
- [38 ページの「電源コードの配線」](#)
- [39 ページの「SER MGT ケーブルの配線」](#)
- [40 ページの「スイッチの設置」](#)
- [45 ページの「CMB の取り付け」](#)

▼ エアダクト構成部品の準備

注記 - カバーとエアダクトは両方とも左右対称であり、上と下は特に決まっていません。カバーにロゴがある場合は、そのロゴが右側になります。

1. このタスクとともに実行する必要のある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
[11 ページの「設置タスクの概要」](#) を参照してください。

2. エアダクトの大きい開口部をカバーの背面のメッシュの部分に合わせます。



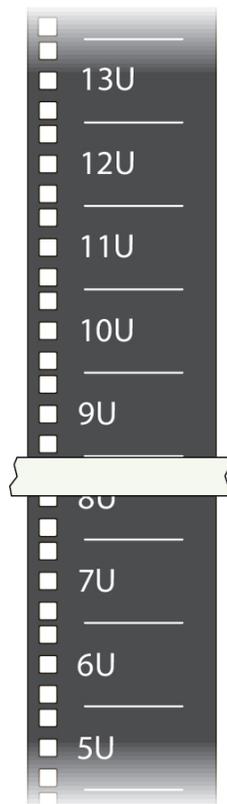
3. エアダクトをカバーに押し込んで、しっかりと固定します。
4. ラックにケージナットを取り付けます。
[35 ページの「ケージナットの取り付け」](#)を参照してください。

関連情報

- [29 ページの「ラックの固定」](#)
- [30 ページの「スイッチの留め具の取り付け」](#)
- [32 ページの「ケーブル管理エクステンダの組み立て」](#)
- [35 ページの「ケージナットの取り付け」](#)
- [37 ページの「ラックマウントハードウェアを取り付ける」](#)
- [38 ページの「電源コードの配線」](#)
- [39 ページの「SER MGT ケーブルの配線」](#)
- [40 ページの「スイッチの設置」](#)
- [45 ページの「CMB の取り付け」](#)

▼ ケージナットの取り付け

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. スイッチを取り付ける位置を決定します。
3. 各ラックポストのこの位置にマスキングテープでマークします。



ラックの下から取り付け位置までのラックユニットの数を数えると、ほかのラックポストをマークするときに役立ちます。

4. 8つのケージナットをラックに取り付けます (ラックポストごとに2つのケージナット)。

注記 - ラックポストの各 RU の取り付け位置には角穴が3つあります。スイッチの取り付けの場合、中央の穴にケージナットは必要はありません。

- a. フランジが右と左に来るようにしてケージナットを角穴に合わせます。
- b. 外側のフランジを角穴に挿入します。



- c. ケージナット取り付け工具またはマイナスのねじ回しをガイドとして使用し、内側のフランジを押さえて角穴に押し込みます。
 - d. フランジからケージナット取り付け工具またはマイナスのねじ回しを引き抜きます。
 - e. 各ケージナットについて、[ステップ 4a](#) から[ステップ 4d](#) を繰り返します。
5. ラックマウントハードウェアを取り付けます。
[37 ページの「ラックマウントハードウェアを取り付ける」](#)を参照してください。

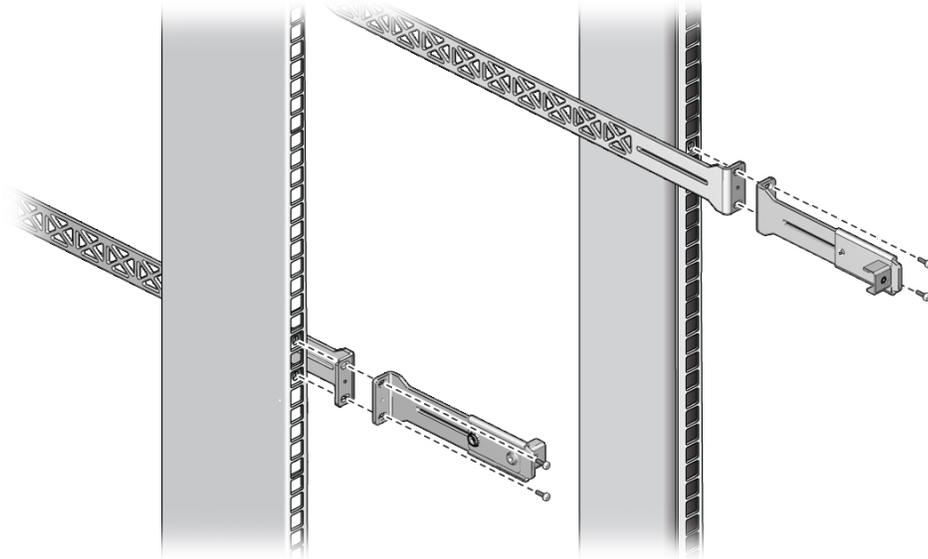
関連情報

- [29 ページの「ラックの固定」](#)
- [30 ページの「スイッチの留め具の取り付け」](#)
- [32 ページの「ケーブル管理エクステンダの組み立て」](#)
- [33 ページの「エアダクト構成部品の準備」](#)

- 37 ページの「ラックマウントハードウェアを取り付ける」
- 38 ページの「電源コードの配線」
- 39 ページの「SER MGT ケーブルの配線」
- 40 ページの「スイッチの設置」
- 45 ページの「CMB の取り付け」

▼ ラックマウントハードウェアを取り付ける

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. ラックの背面のポストの取り付け位置に長いレールを合わせます。
3. ケーブル管理エクステンダのフランジを長いレールのフランジに合わせます。



4. プラスのねじ回し (Phillips の 2 番) を使用して、構成部品を 2 本の M6x12 ねじでポストに固定します。
5. ほかのケーブル管理エクステンダと長いレールについて、[ステップ 2](#) から [ステップ 4](#) を繰り返します。

6. 電源コードを配線します。
38 ページの「[電源コードの配線](#)」を参照してください。

関連情報

- 29 ページの「[ラックの固定](#)」
- 30 ページの「[スイッチの留め具の取り付け](#)」
- 32 ページの「[ケーブル管理エクステンダの組み立て](#)」
- 33 ページの「[エアダクト構成部品の準備](#)」
- 35 ページの「[ケージナットの取り付け](#)」
- 38 ページの「[電源コードの配線](#)」
- 39 ページの「[SER MGT ケーブルの配線](#)」
- 40 ページの「[スイッチの設置](#)」
- 45 ページの「[CMB の取り付け](#)」

▼ 電源コードの配線

電源コードのための設備の電源コンセントは、電源コードが邪魔にならないように配線される位置になるようにしてください。

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. 電源コードのメス側を配電パネルまたはラックの背面のコンセントから配線します。
3. コードをラックの天井を通してラックの前面に配線します。
4. スイッチを設置する位置にメス側が来るように、コードを垂直サポートを通して下方方向に配線します。
5. スイッチの電源コンセントに抜き差しできるように、約 3 インチの遊びを作ります。
6. 電源コードがこれより落ちないように、この縦方向の長さで固定します。
面ファスナーストラップを使用して、コードを束ねて固定します。
7. 次のタスクを確認します。
 - **SER MGT の常時接続がある場合は、SER MGT ケーブルを配線します。**
39 ページの「[SER MGT ケーブルの配線](#)」を参照してください。

- **SER MGT 接続が取り付けのための一時的なものである場合は、ここでスイッチを取り付けます。**
40 ページの「[スイッチの設置](#)」を参照してください。

関連情報

- 29 ページの「[ラックの固定](#)」
- 30 ページの「[スイッチの留め具の取り付け](#)」
- 32 ページの「[ケーブル管理エクステンダの組み立て](#)」
- 33 ページの「[エアダクト構成部品の準備](#)」
- 35 ページの「[ケージナットの取り付け](#)」
- 37 ページの「[ラックマウントハードウェアを取り付ける](#)」
- 39 ページの「[SER MGT ケーブルの配線](#)」
- 40 ページの「[スイッチの設置](#)」
- 45 ページの「[CMB の取り付け](#)」

▼ SER MGT ケーブルの配線

SER MGT ケーブルの常時接続がある場合 (ターミナルサーバーなど) は、このタスクに従ってケーブルを配線します。

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. **SER MGT ケーブルをラックの背面のエントリポイントからラックの天井まで配線します。**
3. **SER MGT ケーブルをラックの天井を通してラックの前面に配線します。**
SER MGT ケーブルはいずれかの電源コードと並行して配線できます。
4. スイッチを設置する位置に終端が来るように、**SER MGT ケーブルを垂直サポートを通して下方向に配線します。**
5. **SER MGT ポートに抜き差しできるように、SER MGT ケーブルに遊びを作ります。**
 - **SER MGT ケーブルがラックの左側にある場合は、12 インチの遊びを作ります。**
 - **SER MGT ケーブルがラックの右側にある場合は、24 インチの遊びを作ります。**

6. **SER MGT ケーブル**がこれより落ちないように、この縦方向の長さで固定します。
面ファスナーストラップを使用して、SER MGT ケーブルを束ねて固定します。
7. **スイッチを設置**します。
[40 ページの「スイッチの設置」](#)を参照してください。

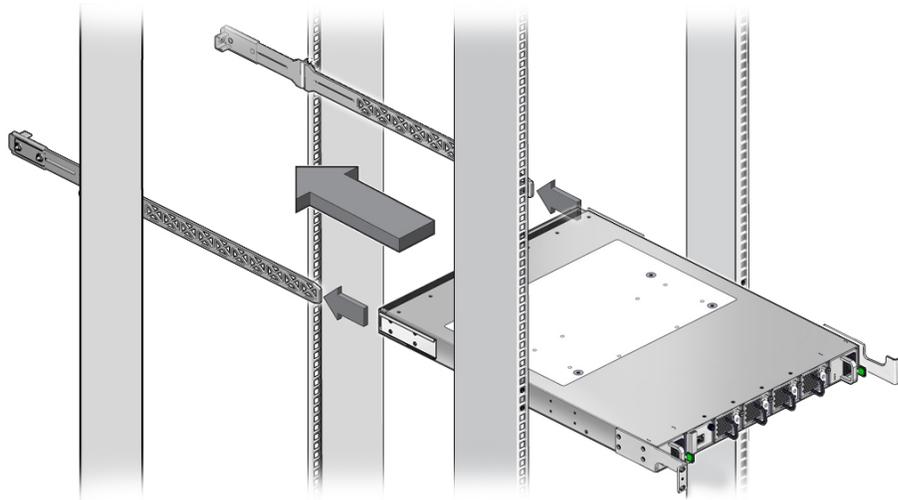
関連情報

- [29 ページの「ラックの固定」](#)
- [30 ページの「スイッチの留め具の取り付け」](#)
- [32 ページの「ケーブル管理エクステンダの組み立て」](#)
- [33 ページの「エアダクト構成部品の準備」](#)
- [35 ページの「ケージナットの取り付け」](#)
- [37 ページの「ラックマウントハードウェアを取り付ける」](#)
- [38 ページの「電源コードの配線」](#)
- [40 ページの「スイッチの設置」](#)
- [45 ページの「CMB の取り付け」](#)

▼ スwitchの設置

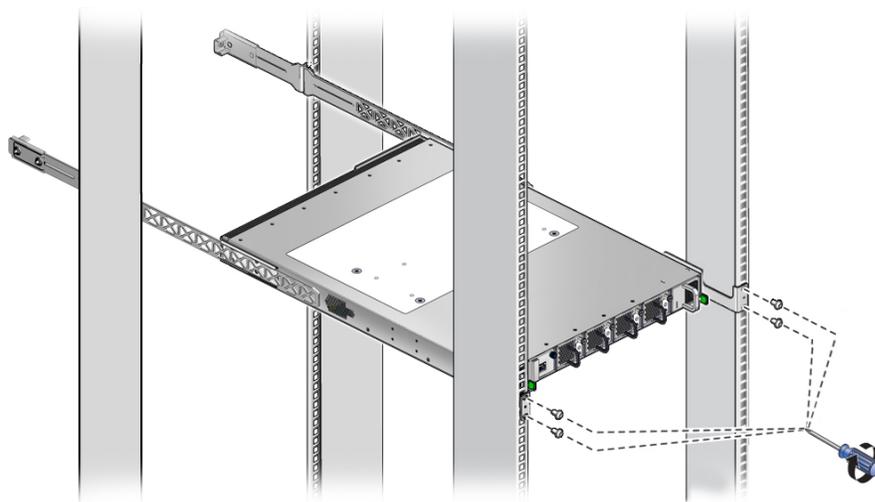
1. このタスクとともに実行する必要のある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
[11 ページの「設置タスクの概要」](#)を参照してください。
2. スwitchを慎重に持ち上げて、ラックの前面から後方にスライドさせます。

長いレールの両端をスイッチシャーシの背面にある C 型チャンネル留め具に確実にスライドさせるようにしてください。

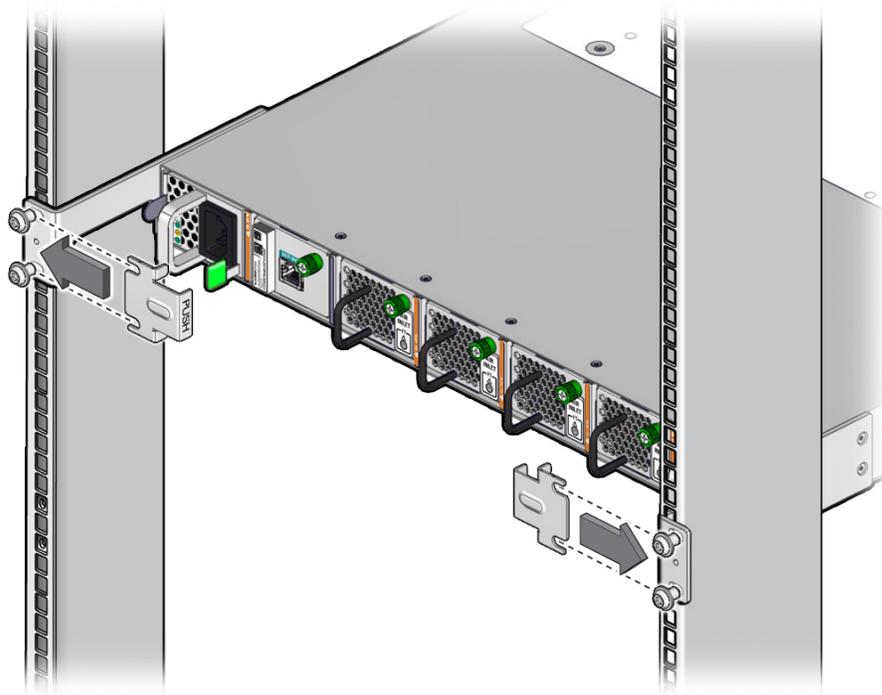


3. プラスのねじ回し (Phillips の 2 番) を使用して、スイッチシャーシの前面を各側に 2 本の M6x12 ねじを使用して前面ラックポストに保持します。

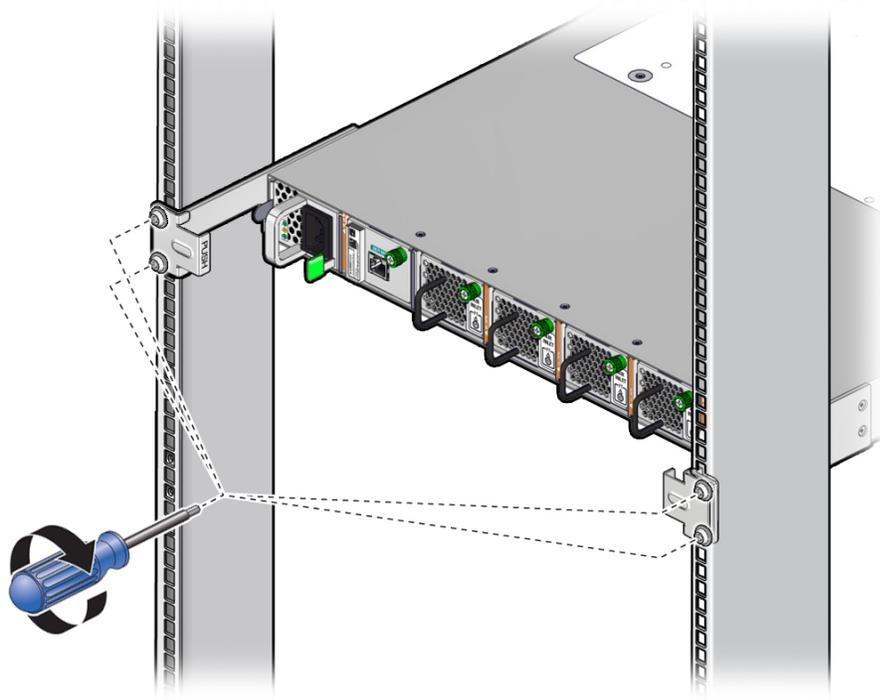
注記 - この時点ではねじを完全に締め付けしないでください。



4. 緩んだねじの下に、爪がラックを指すようにしてスナップ留め具をスライドさせます。



5. スナップ留め具に突き出し印刷された単語 **PUSH** を押しながら、ねじを完全に締めます。



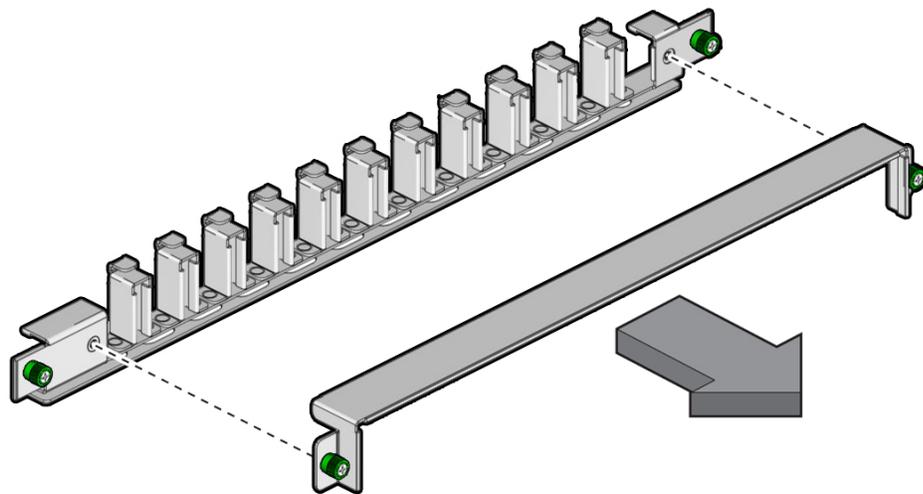
6. 反対側のスナップ留め具について同様に繰り返します。
7. **CMB** を取り付けます。
45 ページの「[CMB の取り付け](#)」を参照してください。

関連情報

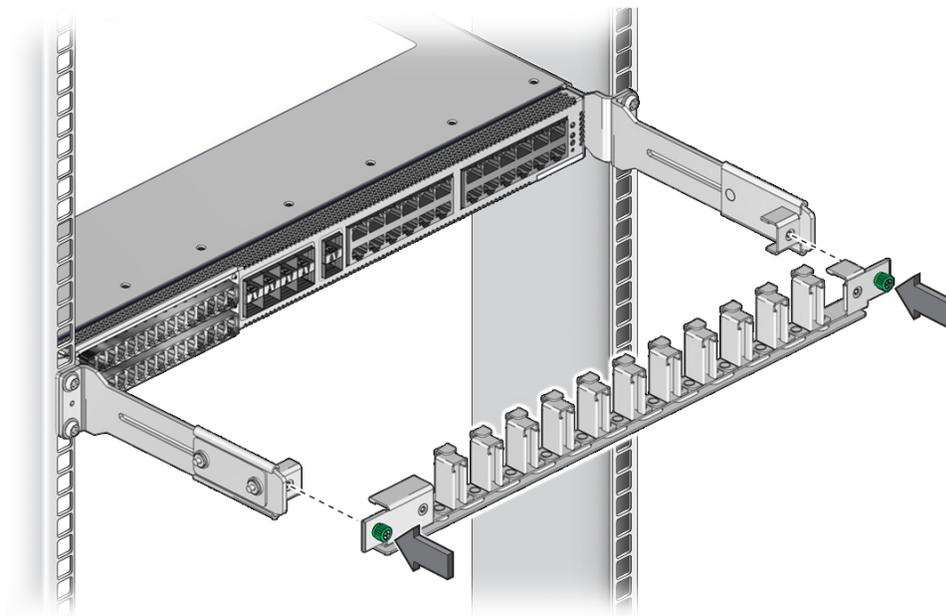
- 29 ページの「[ラックの固定](#)」
- 30 ページの「[スイッチの留め具の取り付け](#)」
- 32 ページの「[ケーブル管理エクステンダの組み立て](#)」
- 33 ページの「[エアダクト構成部品の準備](#)」
- 35 ページの「[ケージナットの取り付け](#)」
- 37 ページの「[ラックマウントハードウェアを取り付ける](#)」
- 38 ページの「[電源コードの配線](#)」
- 39 ページの「[SER MGT ケーブルの配線](#)」
- 45 ページの「[CMB の取り付け](#)」

▼ CMB の取り付け

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. カバーが取り付けられている場合は、カバーを CMB に固定する 2 本の脱落防止機構付きのつまみねじを緩めて、カバーを取り外します。



3. スイッチの背面にある取り付け留め具の爪に CMB を取り付け、CMB の両側にあるつまみねじを締め付けます。



4. 次のタスクを確認します。
 - SFP+ 光ケーブルを組み立てる必要がある場合は、ここで行います。
[54 ページの「SFP+ ケーブルの組み立て」](#)を参照してください。
 - ケーブルの組み立てが必要ない場合は、スイッチにケーブルを配線します。
[56 ページの「ケーブルの配線」](#)を参照してください。

関連情報

- [29 ページの「ラックの固定」](#)
- [30 ページの「スイッチの留め具の取り付け」](#)
- [32 ページの「ケーブル管理エクステンダの組み立て」](#)
- [33 ページの「エアダクト構成部品の準備」](#)
- [35 ページの「ケージナットの取り付け」](#)
- [37 ページの「ラックマウントハードウェアを取り付ける」](#)
- [38 ページの「電源コードの配線」](#)
- [39 ページの「SER MGT ケーブルの配線」](#)

- [40 ページの「スイッチの設置」](#)

ケーブルの接続

これらのトピックでは、配線に関する情報を提供し、スイッチを配線する方法について説明します。

説明	リンク
ケーブルの要件について理解します。	49 ページの「ケーブルの要件」
ケーブルの違いを識別します。	50 ページの「標準 MT ケーブルおよび PrizmMT ケーブル」
ケーブルに関する注意事項に留意します。	52 ページの「ケーブルに関する注意事項」
必要な場合は、光データケーブルを組み立てます。	54 ページの「SFP+ ケーブルの組み立て」
データケーブルを配線します。	56 ページの「ケーブルの配線」
データケーブルを接続します。	<ul style="list-style-type: none">■ 57 ページの「RJ-45 Ethernet ケーブルの接続」■ 58 ページの「PrizmMT ケーブルの接続」■ 60 ページの「SFP+ ケーブルの接続」
CMB にケーブルを固定します。	62 ページの「CMB へのケーブルの固定」

関連情報

- [11 ページの「スイッチの理解」](#)
- [17 ページの「仕様の確認」](#)
- [23 ページの「設置の準備」](#)
- [29 ページの「スイッチの設置」](#)
- [67 ページの「スイッチの電源投入」](#)
- [87 ページの「機能の検証」](#)

ケーブルの要件

スイッチの最低限の機能を使用するためには、この配線が必要となります。

- **管理コンソール** – 管理コンソールは、管理者が SP を操作するために使用する物理的な手段です。この接続を行う方法は 2 つあります。

- **シリアル管理** – シリアルデバイス (TIP 接続、シリアル端末、ターミナルサーバーなど) をスイッチの前面の SER MGT ポートに配線します。専用のシリアル端末を使用したシリアル管理の利点は、ネットワーク管理を使用するよりも接続がセキュアであることです。シリアル信号の性質上、30 フィート (9 m) より長いシリアル管理ケーブルでは信頼性を確保できません。
- **ネットワーク管理** – ネットワーク管理では、既存のネットワークを使用して、SFP+ ケーブルまたは RJ-45 ケーブルをスイッチの背面のコネクタに接続できます。これは、ネットワーク上の任意のホストを使用して SP および Oracle ILOM Web インタフェースを操作できる柔軟性があるため、SP に接続する際の望ましい方法です。セキュリティを向上させるには、SP に VLAN ID を構成できます。
- **電源ユニット** – ラック内の配電ユニットからスイッチに電源を提供するための各国固有の電源コードが、スイッチとともに出荷されています。
- **RJ-45 Ethernet ポート** – これらの 24 個のポートは、CAT 6 規格のケーブルを介して、スイッチされた 1GBASE-T 機能を提供します。
- **SFP+ Ethernet ポート** – これらの 10 個のポートは、銅ケーブルまたは光ファイバを使用して、スイッチされた 10GbE 機能を提供します。
- **PrizmMT ポート** – これらの 30 個のポートは、特殊な光ファイバケーブルを使用して、スイッチされた 100G ビット/秒 EDR IB 機能を提供します。

関連情報

- [50 ページの「標準 MT ケーブルおよび PrizmMT ケーブル」](#)
- [52 ページの「ケーブルに関する注意事項」](#)
- [54 ページの「SFP+ ケーブルの組み立て」](#)
- [56 ページの「ケーブルの配線」](#)
- [57 ページの「RJ-45 Ethernet ケーブルの接続」](#)
- [58 ページの「PrizmMT ケーブルの接続」](#)
- [60 ページの「SFP+ ケーブルの接続」](#)
- [62 ページの「CMB へのケーブルの固定」](#)

標準 MT ケーブルおよび PrizmMT ケーブル

PrizmMT 光ファイバケーブルと標準 MT 光ファイバケーブルは見た目は似ていますが異なります。PrizmMT ケーブルには、接続部分の空隙を超えてレーザー光をフォーカスさせるレンズを持つクリアなプラスチック製フェルールが使用されています。標準 MT ケーブルは、各接続のファイバの先端の物理的な接触に依存しています。



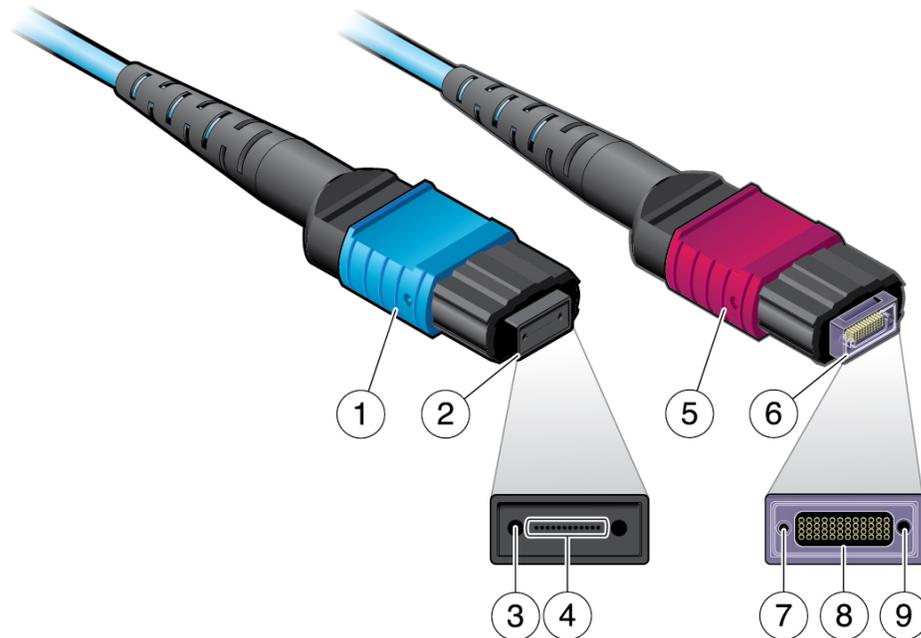
注意 - PrizmMT ケーブルを (QSFP トランシーバなどにある) 標準 MT ソケットに接続すると、PrizmMT フェルールが損傷し、そのケーブルを使用できなくなります。

PrizmMT ケーブルと標準 MT ケーブルを区別するために、PrizmMT ケーブルは明確な特徴を持っています。特徴は、フェルール、ハウジングの色、位置合わせ方法、およびファイバの間隔です。

テクノロジー	フェルール	ハウジングの色	位置合わせ方法	ファイバの間隔
4x PrizmMT 光ケーブル	PrizmMT (レンズ付きクリア)	マゼンタ	ポストと穴	広い
12x PrizmMT 光ケーブル	PrizmMT (レンズ付きクリア)	黒色	ポストと穴	広い
4x 標準 MT 光ケーブル	標準 MT (黒色)	水色	ピンまたは穴	狭い
4x 標準 MT 光ケーブル	標準 MT (黒色)	黒色	ピンまたは穴	狭い

注記 - サポートされている一部のケーブルでは、一方の端に PrizmMT コネクタがあり、他方の端に標準 MT コネクタがあります。このケーブルを接続するときは、各コネクタを識別して 2 つを混同しないように注意してください。

2 つのケーブルの外観を見比べて比較し、左側の標準 MT ケーブルと右側の PrizmMT ケーブルの違いを確認します。



番号	説明
1	水色のハウジング (標準 MT)
2	標準フェルール (標準 MT)
3	位置合わせピンの穴 (標準 MT)
4	接触タイプの光ファイバ (標準 MT)
5	マゼンタ色のハウジング (PrizmMT)
6	Prizm フェルール (PrizmMT)
7	位置合わせポスト (PrizmMT)
8	集中型の光ファイバアレイ (PrizmMT)
9	位置合わせ穴 (PrizmMT)

関連情報

- [49 ページの「ケーブルの要件」](#)
- [52 ページの「ケーブルに関する注意事項」](#)
- [54 ページの「SFP+ ケーブルの組み立て」](#)
- [56 ページの「ケーブルの配線」](#)
- [57 ページの「RJ-45 Ethernet ケーブルの接続」](#)
- [58 ページの「PrizmMT ケーブルの接続」](#)
- [60 ページの「SFP+ ケーブルの接続」](#)
- [62 ページの「CMB へのケーブルの固定」](#)

ケーブルに関する注意事項

データケーブルの損傷を防ぐために、これらの注意事項に従う必要があります。



よじれが発生することがあるため、コイル状になっているケーブルを解かないでください。ケーブルを伸ばすときはコイル状になった状態で保持し、ケーブルが緩んで解けるようにします。



ケーブルやコネクタを踏まないでください。人の通る場所や転動荷重を避けてケーブル経路を計画してください。



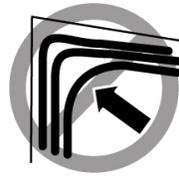
ケーブルを梱装箱や隙間から引っ張り出したり、曲がり角の周りで引っ張ったりしないでください。ケーブルをロールから繰り出しながら、曲がり角に沿って敷いてください。



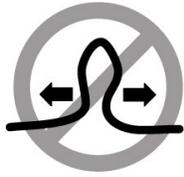
ケーブルを半径 85 mm (3.4 インチ) よりきつく曲げないでください。ケーブルの曲げはできるだけ緩やかにしてください。



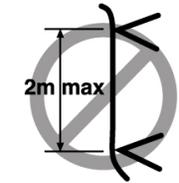
よじれを直すためにケーブルをねじらないでください。よじれがひどくない場合は、ケーブルのループを広げてよじれを直します。



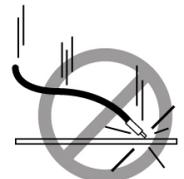
ケーブルを狭い場所に詰め込まないでください。別のケーブル経路を使用してください。



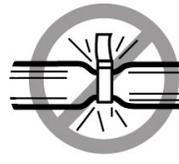
ひどく曲がったところを直すためにケーブルをまっすぐに伸ばさないでください。ケーブルを曲がったままにしてください。



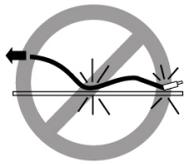
2 m (7 フィート) 以上ケーブルをつり下げないでください。中間に保持ポイントを作って、つり下げの重量を最小限にします。



ケーブルやコネクタをどのような高さからも落とさないでください。ケーブルはゆっくりと敷き、ケーブルコネクタは安定した面に置いてください。



硬いファスナーまたは結束バンドを使用してケーブルを締め付けしないでください。ソフトな面ファスナーを使用し、ケーブルを束ねて固定します。



ケーブルやコネクタをどのような面の上でも引きずらないでください。接続点の間を移動する場合はケーブル全体を運んでください。



ケーブルを押しつけてケーブルコネクタをソケットに無理に差し込まないでください。抜き差しの際は、コネクタだけに力がかかるようにしてください。

関連情報

- [49 ページの「ケーブルの要件」](#)
- [50 ページの「標準 MT ケーブルおよび PrizmMT ケーブル」](#)
- [54 ページの「SFP+ ケーブルの組み立て」](#)
- [56 ページの「ケーブルの配線」](#)
- [57 ページの「RJ-45 Ethernet ケーブルの接続」](#)
- [58 ページの「PrizmMT ケーブルの接続」](#)
- [60 ページの「SFP+ ケーブルの接続」](#)
- [62 ページの「CMB へのケーブルの固定」](#)

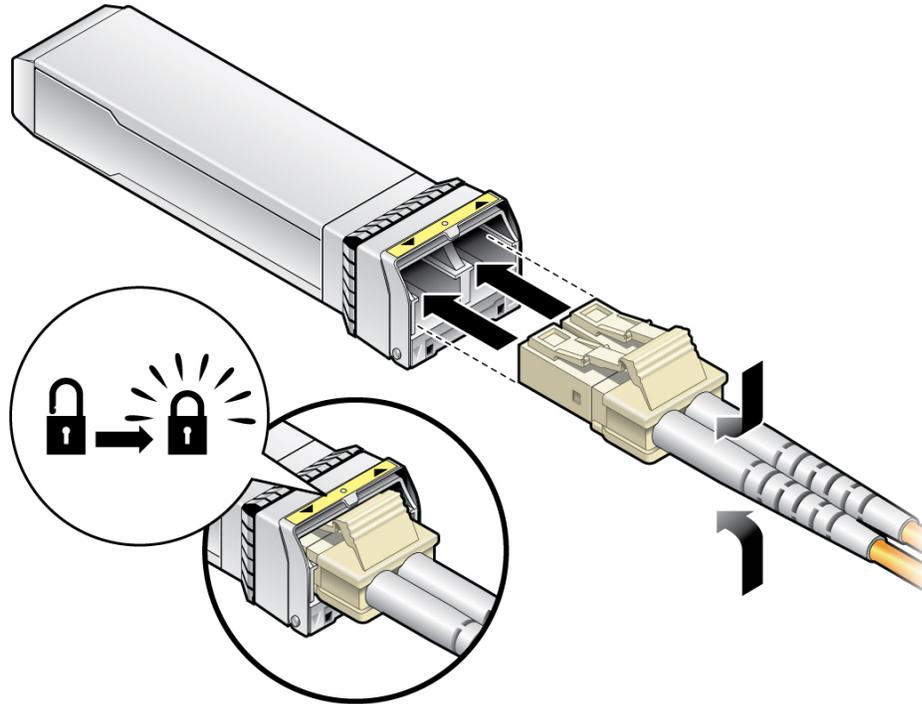
▼ SFP+ ケーブルの組み立て

光 SFP+ ケーブルが組み立てられていない場合は、スイッチに接続する前にケーブルを組み立てる必要があります。

注記 - 組み立てる前に、光ファイバケーブルの両端およびトランシーバのソケットがきれいであり、光学的にクリアである必要があります。そうするように指示されるまで、光ファイバケーブルの保護キャップまたはトランシーバのプラグを取り外さないでください。

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
[11 ページの「設置タスクの概要」](#)を参照してください。
2. SFP+ 光トランシーバおよびファイバ光ケーブルを梱包から取り出します。
3. SFP+ 光トランシーバからプラグを抜きます。
4. 光ファイバケーブルの LC コネクタからキャップを取り外します。
5. LC コネクタのシャフトを持ち、SFP+ 光トランシーバのソケットに LC コネクタを挿入します。

注記 - LC コネクタと SFP+ ソケットは正しく接合されるようにロックされます。



6. カチッと音がするまでコネクタをトランシーバに押し込みます。
7. ケーブルのもう一方の端に対して、[ステップ 3](#) から繰り返します。
8. 組み立てるすべての SFP+ ケーブルについて、[ステップ 2](#) から繰り返します。
9. データケーブルを配線します。
[56 ページの「ケーブルの配線」](#) を参照してください。

関連情報

- [49 ページの「ケーブルの要件」](#)
- [50 ページの「標準 MT ケーブルおよび PrizmMT ケーブル」](#)
- [52 ページの「ケーブルに関する注意事項」](#)
- [56 ページの「ケーブルの配線」](#)
- [57 ページの「RJ-45 Ethernet ケーブルの接続」](#)

- 58 ページの「PrizmMT ケーブルの接続」
- 60 ページの「SFP+ ケーブルの接続」
- 62 ページの「CMB へのケーブルの固定」

▼ ケーブルの配線

トポロジを配線するときは、ファブリックのノードまたはネットワークのホストから開始し、スイッチに向かって作業します。

1. このタスクとともに実行する必要のある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. 必要な場合は、ノードまたはホストをスイッチに接続するためのケーブルを準備します。
54 ページの「[SFP+ ケーブルの組み立て](#)」を参照してください。
3. ノードまたはホストが動作していて、正しく構成されており、ファブリックまたはネットワークを配線できる状態になるように準備して確認します。
4. 各ノードまたはホストのデータケーブルの配線を開始します。
 - a. ノードまたはホストの適切なコネクタにケーブルを接続します。
 - b. このドキュメントで説明されている注意事項に従い、トポロジに沿ってデータケーブルを配線して束ねます。
52 ページの「[ケーブルに関する注意事項](#)」を参照してください。
 - c. スイッチを設置するラック内の場所まで、ケーブルを通します。
 - d. 各ノードまたはホストについて、[ステップ 4a](#) から[ステップ 4c](#) を繰り返します。
5. スイッチにケーブルを接続します。
57 ページの「[RJ-45 Ethernet ケーブルの接続](#)」を参照してください。

関連情報

- 49 ページの「[ケーブルの要件](#)」
- 50 ページの「[標準 MT ケーブルおよび PrizmMT ケーブル](#)」
- 52 ページの「[ケーブルに関する注意事項](#)」
- 54 ページの「[SFP+ ケーブルの組み立て](#)」

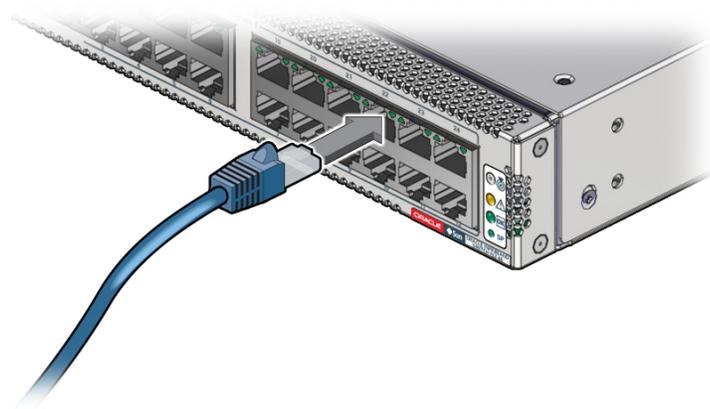
- 57 ページの「RJ-45 Ethernet ケーブルの接続」
- 58 ページの「PrizmMT ケーブルの接続」
- 60 ページの「SFP+ ケーブルの接続」
- 62 ページの「CMB へのケーブルの固定」

▼ RJ-45 Ethernet ケーブルの接続

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。

11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。

2. スイッチに接続する位置に RJ-45 コネクタを合わせます。
上の列のソケットの爪は上側にあり、下の列のソケットの爪は下側にあります。



3. カチッと音がするまでコネクタをソケットに挿入し、その位置に固定します。
4. ケーブルを CMB のスロットに通します。
5. 接続する各ケーブルについて、[ステップ 2](#) から [ステップ 4](#) を繰り返します。
6. 次のタスクを確認します。
 - 必要な場合は、PrizmMT ケーブルを接続します。
[58 ページの「PrizmMT ケーブルの接続」](#)を参照してください。
 - 必要な場合は、SFP+ ケーブルを接続します。

60 ページの「SFP+ ケーブルの接続」を参照してください。

- **CMB にケーブルを固定します。**
62 ページの「CMB へのケーブルの固定」を参照してください。

関連情報

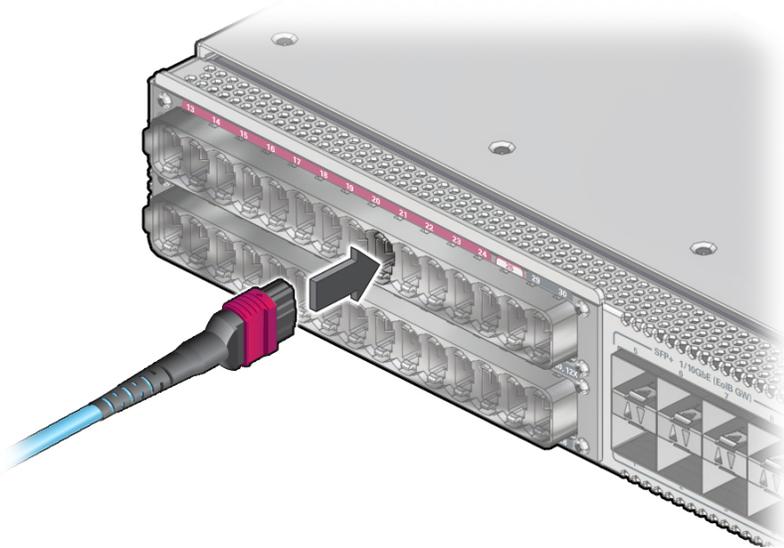
- 49 ページの「ケーブルの要件」
- 50 ページの「標準 MT ケーブルおよび PrizmMT ケーブル」
- 52 ページの「ケーブルに関する注意事項」
- 54 ページの「SFP+ ケーブルの組み立て」
- 56 ページの「ケーブルの配線」
- 58 ページの「PrizmMT ケーブルの接続」
- 60 ページの「SFP+ ケーブルの接続」
- 62 ページの「CMB へのケーブルの固定」

▼ PrizmMT ケーブルの接続

注記 - 1 から 26 のラベルが付けられている PrizmMT ソケットは、マゼンタ色のハウジングの 4x PrizmMT ケーブル用です。27 から 30 のラベルが付けられている PrizmMT ソケットは、黒色のハウジングの 12x PrizmMT ケーブル用です。

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「設置タスクの概要」を参照してください。
2. ケーブルを取り付ける PrizmMT ソケットからフィラープラグ (取り付けられている場合) を取り外し、ソケットを目視で点検します。
ソケットはきれいで、汚れまたはゴミが付いていないようにします。
3. ソケットが汚れている場合はきれいにします。
 - a. PrizmMT クリーナの端からアダプタを取り外します。
 - b. クリーナの先端をソケットに挿入します。
 - c. クリーナをソケット内で何回か往復させて、クリーニングクロスの内側に送ります。
 - d. ソケットからクリーナを取り外し、きれいになったことを確認します。

- e. ファイバがまだ汚れている場合は、**ステップ 3b** から繰り返します。
 - f. PrizmMT クリーナの端にアダプタを取り付けます。
4. ケーブルのコネクタから保護キャップを取り外して、コネクタを目視で点検します。コネクタはきれいで、汚れまたはゴミが付いていないようにします。
 5. コネクタが汚れている場合はきれいにします。
 - a. PrizmMT クリーナの端にあるアダプタのふたを開きます。
 - b. アダプタにコネクタを挿入します。
 - c. コネクタをアダプタに対して押し込むことにより、クリーナを何回か往復させて、クリーニングクロスを内側に送ります。
 - d. アダプタからコネクタを取り外し、きれいになったことを確認します。
 - e. ファイバがまだ汚れている場合は、**ステップ 5b** から繰り返します。
 - f. PrizmMT クリーナの端にあるアダプタのふたを閉じます。
 6. 接続する位置に PrizmMT コネクタを合わせます。



7. コネクタが戻らなくなるを感じるまで、ソケットに PrizmMT コネクタをしっかりと押し込みます。
8. ケーブルを CMB のスロットに通します。
9. 接続する各ケーブルについて、[ステップ 2](#) から [ステップ 8](#) を繰り返します。
10. 次のタスクを確認します。
 - 必要な場合は、SFP+ ケーブルを接続します。
[60 ページの「SFP+ ケーブルの接続」](#)を参照してください。
 - CMB にケーブルを固定します。
[62 ページの「CMB へのケーブルの固定」](#)を参照してください。

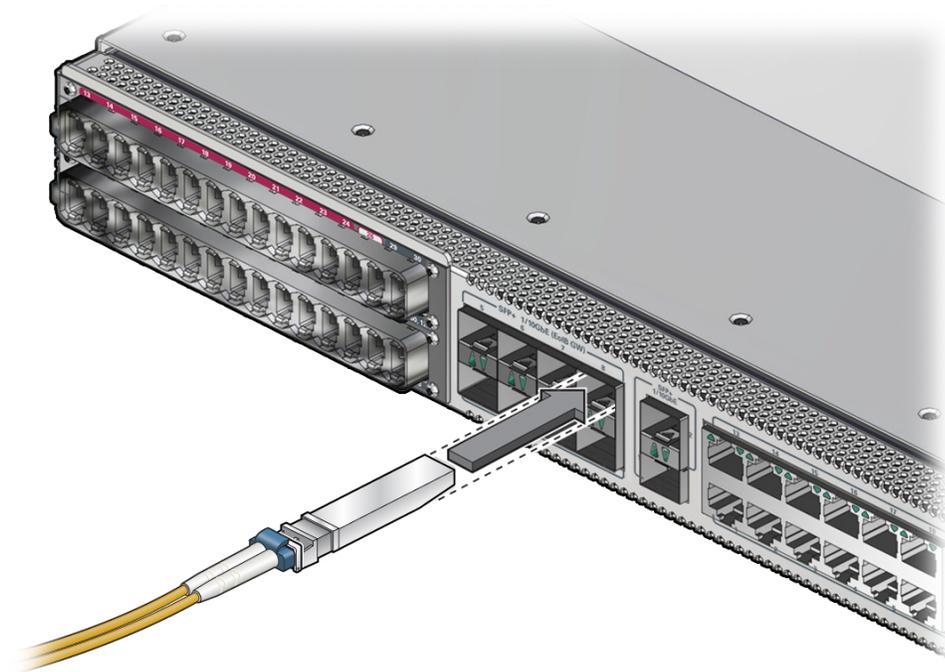
関連情報

- [49 ページの「ケーブルの要件」](#)
- [50 ページの「標準 MT ケーブルおよび PrizmMT ケーブル」](#)
- [52 ページの「ケーブルに関する注意事項」](#)
- [54 ページの「SFP+ ケーブルの組み立て」](#)
- [56 ページの「ケーブルの配線」](#)
- [57 ページの「RJ-45 Ethernet ケーブルの接続」](#)
- [60 ページの「SFP+ ケーブルの接続」](#)
- [62 ページの「CMB へのケーブルの固定」](#)

▼ SFP+ ケーブルの接続

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
[11 ページの「設置タスクの概要」](#)を参照してください。
2. コネクタまたはトランシーバから保護キャップを取り外して、ケーブルのコネクタを目視で点検します。
シェルが曲がっていないこと、および内側のボードに対して平行であることが必要です。コネクタに湾曲や損傷がある場合は、別のケーブルを使用してください。
3. リトラクションストラップがケーブルに対して折り畳まれていることを確認します。
4. ケーブルのコネクタを SFP+ のソケットに対して直角に水平に合わせます。

上側のソケット列の場合は L 溝が上になり、下側のソケット列の場合は L 溝が下になるようにしてください。



5. コネクタをゆっくりと差し込みます。
コネクタを中にスライドさせると、シェルが SFP+ ソケットの中央にきます。
 - 約 1/4 インチ (5 mm) 差し込んだところでコネクタが止まったり動きにくくなったりした場合は、抜いてから **ステップ 4** からやり直してください。
 - 残り約 1/8 インチ (2 mm) のところでコネクタが止まったり動きにくくなったりした場合は、抜いてから **ステップ 5** をやり直してください。
6. コネクタが戻らなくなるのを感じるまで、さらに押し込みます。
7. ケーブルを CMB のスロットに通します。
8. 接続する各ケーブルについて、**ステップ 2** から **ステップ 7** を繰り返します。
9. CMB にケーブルを固定します。

62 ページの「CMB へのケーブルの固定」を参照してください。

関連情報

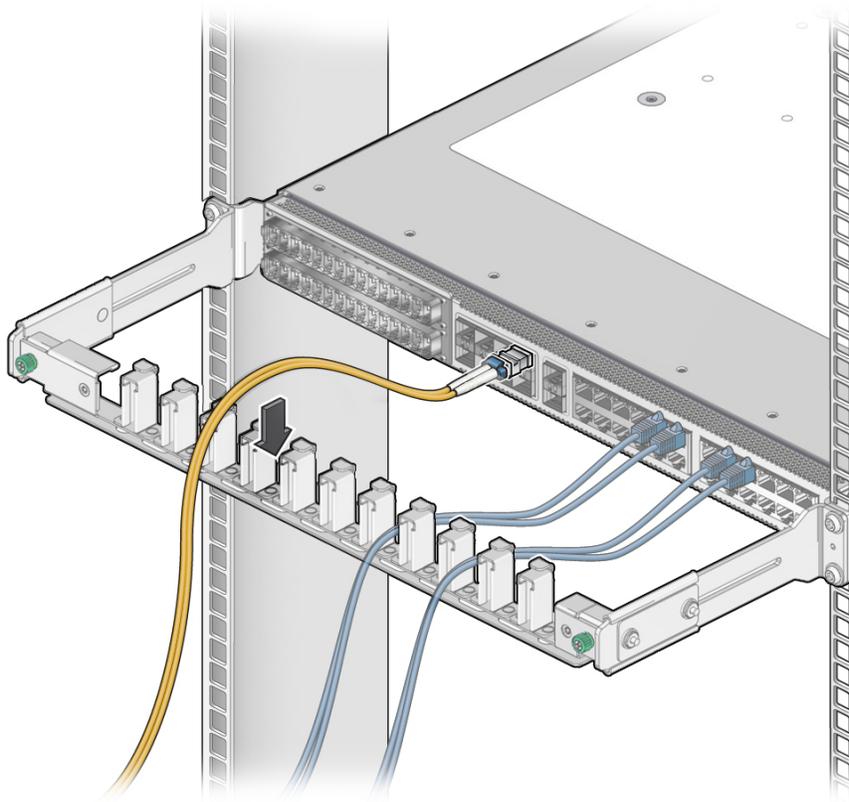
- 49 ページの「ケーブルの要件」
- 50 ページの「標準 MT ケーブルおよび PrizmMT ケーブル」
- 52 ページの「ケーブルに関する注意事項」
- 54 ページの「SFP+ ケーブルの組み立て」
- 56 ページの「ケーブルの配線」
- 57 ページの「RJ-45 Ethernet ケーブルの接続」
- 58 ページの「PrizmMT ケーブルの接続」
- 62 ページの「CMB へのケーブルの固定」

▼ CMB へのケーブルの固定

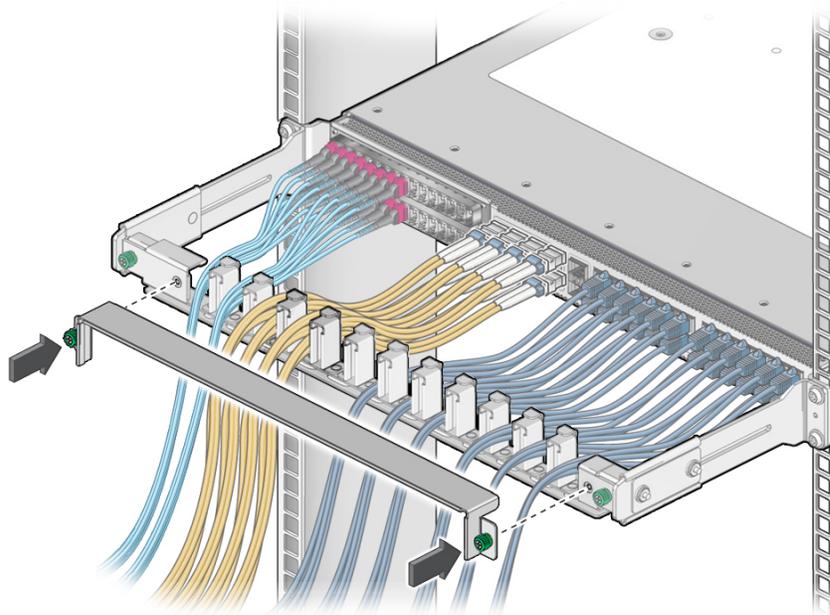
1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。

11 ページの「設置タスクの概要」を参照してください。

2. RJ-45、SFP+、および PrizmMT ケーブルをスイッチに接続するとき、ケーブルを CMB の使用可能なスロットに通します。



3. すべてのケーブルを通したら、CMB のカバーを取り付けて、つまみねじを締め付けます。



4. ほかのケーブルと干渉しない、スイッチやほかのシステムの保守の邪魔にならない経路で、データケーブルを配線します。

面ファスナーストラップを使用して、ケーブルを束ねて固定します。

注記 - ケーブルを束ねたり固定したりするために結束バンドを使用すると、ケーブル内部のファイバが損傷するため、結束バンドは使用しないでください。

5. スイッチに接続するために、電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出します (以前に配線されている場合)。

68 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」を参照してください。

関連情報

- 49 ページの「ケーブルの要件」
- 50 ページの「標準 MT ケーブルおよび PrizmMT ケーブル」
- 52 ページの「ケーブルに関する注意事項」
- 54 ページの「SFP+ ケーブルの組み立て」

- 56 ページの「ケーブルの配線」
- 57 ページの「RJ-45 Ethernet ケーブルの接続」
- 58 ページの「PrizmMT ケーブルの接続」
- 60 ページの「SFP+ ケーブルの接続」

スイッチの電源投入

これらのトピックでは、はじめてスイッチに電源投入する方法について説明します。

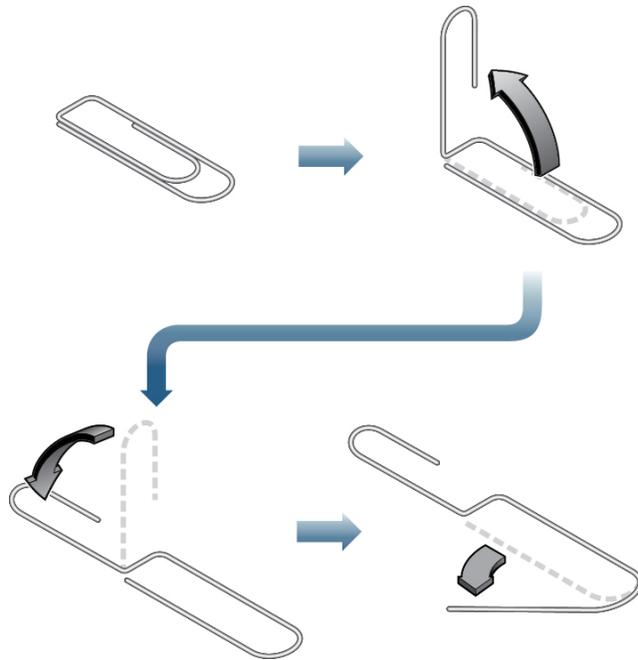
説明	リンク
電源コードと SER MGT ケーブルを引き出します。	68 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」
シリアル管理デバイスを接続します。	<ul style="list-style-type: none">■ 71 ページの「SER MGT ケーブルの接続」■ 74 ページの「SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続」
電源コードを接続します。	74 ページの「電源コードの接続」
SER MGT の常時接続がある場合は、エアダクトを取り付けます。	76 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」
スイッチの電源を投入します。	78 ページの「スイッチの電源投入」
DHCP で割り当てられた IP アドレスを使用していない場合は、SER MGT 接続経由でサービスプロセッサ (SP) にログインします。	79 ページの「SP へのログイン (SER MGT)」
静的 IP アドレスを SP に割り当てます	80 ページの「SP への静的 IP アドレスの割り当て」
静的 IP アドレスを SCP に割り当てます	82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」
SP に再度ログインします	84 ページの「SP へのログイン (ネットワーク管理)」

関連情報

- [11 ページの「スイッチの理解」](#)
- [17 ページの「仕様の確認」](#)
- [23 ページの「設置の準備」](#)
- [29 ページの「スイッチの設置」](#)
- [49 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [87 ページの「機能の検証」](#)

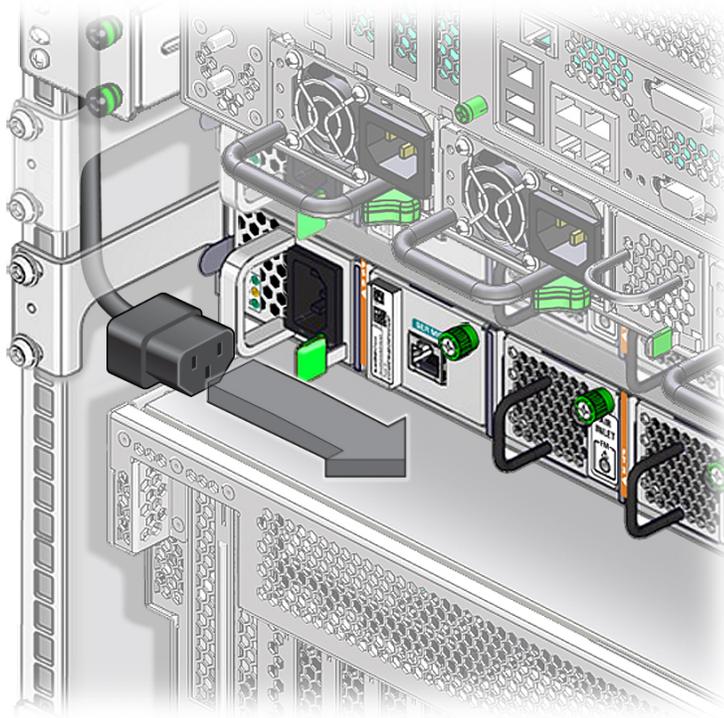
▼ 電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. ペーパークリップを取り出し、小さい方のループを持ち上げて大きい方のループから離します。



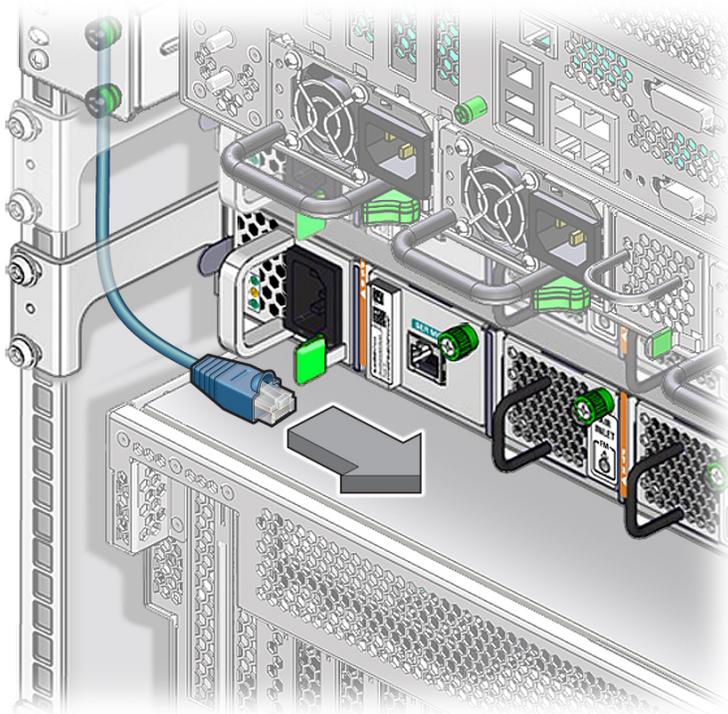
3. ペーパークリップをさらに広げて小さい方のループを折り返し、ペーパークリップが S 字になるようにします。
4. 大きい方のループを約 45 度開いて、フックのような形にします。
5. 小さい方のループを持ち、大きい方のループを長い前面固定部品の開口部に挿入し、電源コードを引っかけて内部にぶら下げます。

6. 指でつかむことができるまで、開口部を通して電源コードを引き込みます。



7. コードの端が自由になるようにコードを引き込みます。
8. ほかの電源コードについて、**ステップ 5** から**ステップ 7** を繰り返します。
9. **SER MGT** の常時接続がある場合は、**SER MGT** ケーブルについて**ステップ 5** から**ステップ 7** を繰り返します。

注記 - SER MGT ケーブルを引き込むときは、RJ-45 コネクタの爪を壊さないように注意してください。



10. 次の手順を確認します。

- DHCP で割り当てられた IP アドレスがある場合は、電源コードを接続します。
[74 ページの「電源コードの接続」](#) を参照してください。
- それ以外の場合は、SER MGT ケーブルを接続します。
[71 ページの「SER MGT ケーブルの接続」](#) を参照してください。

関連情報

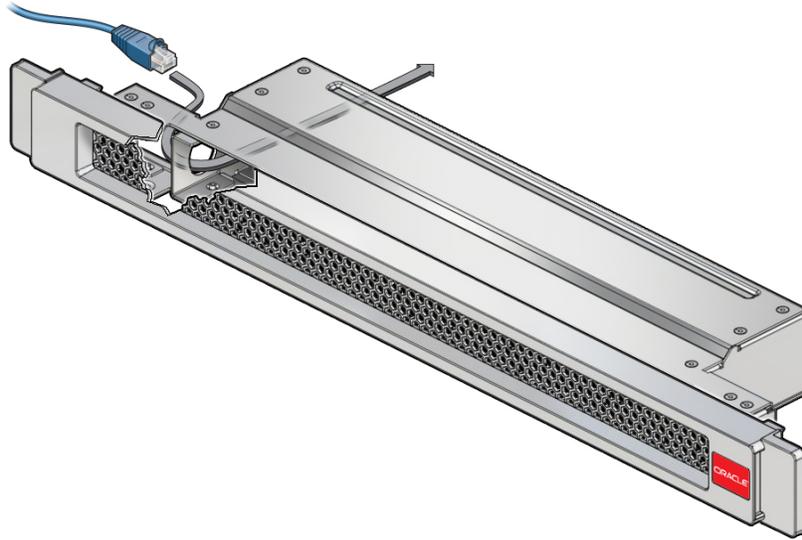
- [71 ページの「SER MGT ケーブルの接続」](#)
- [74 ページの「SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続」](#)
- [74 ページの「電源コードの接続」](#)
- [76 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」](#)

- 78 ページの「スイッチの電源投入」
- 79 ページの「SP へのログイン (SER MGT)」
- 80 ページの「SP への静的 IP アドレスの割り当て」
- 82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」
- 84 ページの「SP へのログイン (ネットワーク管理)」

▼ SER MGT ケーブルの接続

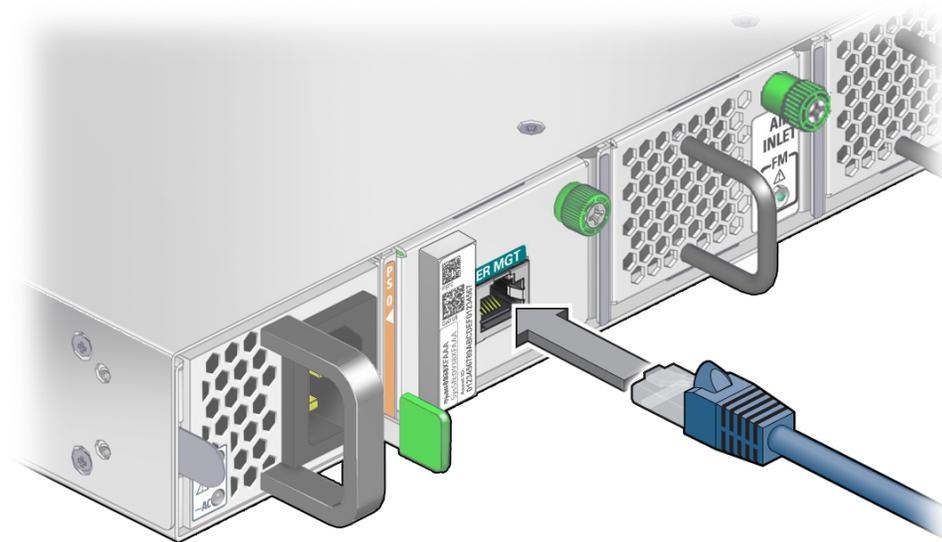
1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. 次の手順を確認します。
 - SER MGT ケーブルが常時接続である場合は、[ステップ 3](#)に進みます。
 - SER MGT 接続が取り付けのための一時的なものでしかない場合は、[ステップ 5](#)に進みます。
3. エアダクト構成部品の側面の開口部に SER MGT ケーブルの端を通します。
 - SER MGT ケーブルが左側にある場合は、ケーブルを外側から通して、左側の開口部 (Oracle ロゴがない方) から中心に通します。

- SER MGT ケーブルが右側にある場合は、ケーブルを外側から通して、右側の開口部 (Oracle ロゴがある方) から中心に通します。



4. エアダクト構成部品にケーブルをさらに引き込んでたるみをなくします。
5. スイッチの前面左側の電源装置の近くにある SER MGT ソケットに RJ-45 コネクタを合わせます。

ソケットの爪は上側にあります。



6. カチッと音がするまでコネクタをソケットに挿入し、その位置に固定します。
7. **SER MGT ケーブル**のもう一方の端をシリアルデバイスに接続します。
[74 ページの「SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続」](#)を参照してください。

関連情報

- [68 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」](#)
- [74 ページの「SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続」](#)
- [74 ページの「電源コードの接続」](#)
- [76 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」](#)
- [78 ページの「スイッチの電源投入」](#)
- [79 ページの「SP へのログイン \(SER MGT\)」](#)
- [80 ページの「SP への静的 IP アドレスの割り当て」](#)
- [82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」](#)
- [84 ページの「SP へのログイン \(ネットワーク管理\)」](#)

▼ SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
[11 ページの「設置タスクの概要」](#)を参照してください。
2. シリアル管理デバイスにこれらのパラメータを構成します。
 - 9600 ボー
 - 8 データビット
 - パリティなし
 - ストップビット 1
 - ハンドシェイクなし
3. スイッチからシリアル管理デバイスに SER MGT ケーブルを接続します。
4. 必要な場合は、ほかのケーブルやほかのシステムと干渉しない、スイッチの保守の邪魔にならない経路で、SER MGT ケーブルを配線します。
5. 電源コードを接続します。
[74 ページの「電源コードの接続」](#)を参照してください。

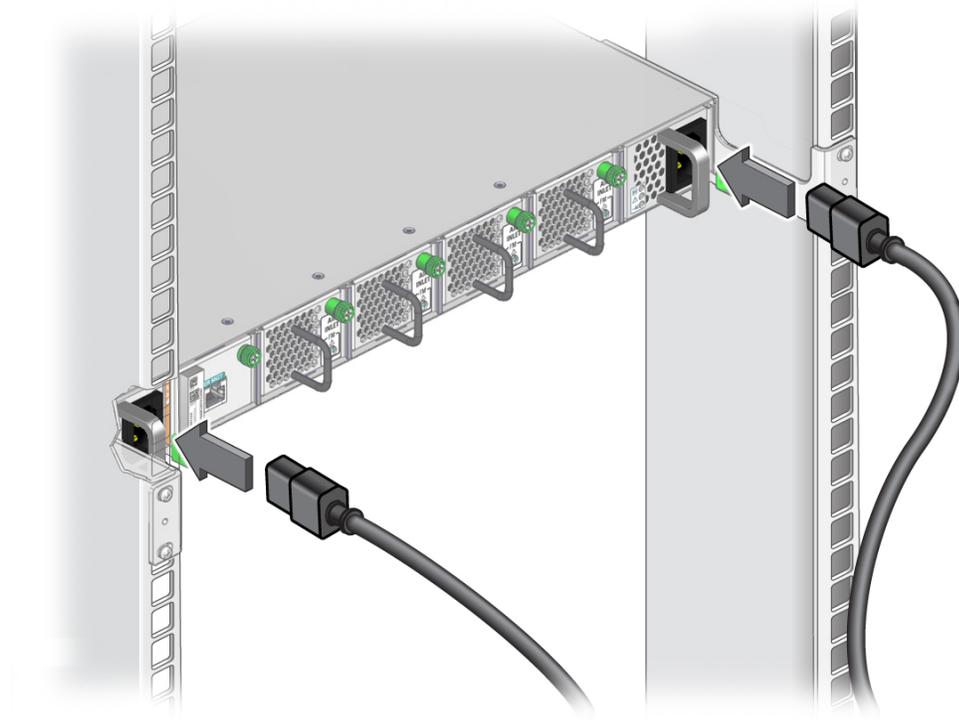
関連情報

- [68 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」](#)
- [71 ページの「SER MGT ケーブルの接続」](#)
- [74 ページの「電源コードの接続」](#)
- [76 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」](#)
- [78 ページの「スイッチの電源投入」](#)
- [79 ページの「SP へのログイン \(SER MGT\)」](#)
- [80 ページの「SP への静的 IP アドレスの割り当て」](#)
- [82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」](#)
- [84 ページの「SP へのログイン \(ネットワーク管理\)」](#)

▼ 電源コードの接続

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
[11 ページの「設置タスクの概要」](#)を参照してください。
2. 設備の電源コンセントまたは配電装置の回路遮断器がオフにされていることを確認します。

3. スイッチシャーシの前面にあるコンセントに電源コードを差し込みます。



4. 各電源コードを設備の電源コンセントまたは配電装置に差し込みます。

注記 - 冗長性を持たせるために、各電源コードを別々の電源に接続します。スイッチは1つの電源のみで動作可能ですが、その場合は冗長性がありません。



注意 - この時点では電源を供給しないでください。

5. 次の手順を確認します。
 - DHCP で割り当てられた IP アドレスがある場合は、エアダクト構成部品を取り付けます。
76 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」を参照してください。
 - SER MGT の常時接続がある場合は、エアダクト構成部品を取り付けます。
76 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」を参照してください。

- **SER MGT 接続が一時的な場合は、スイッチの電源を投入します。**
78 ページの「[スイッチの電源投入](#)」を参照してください。

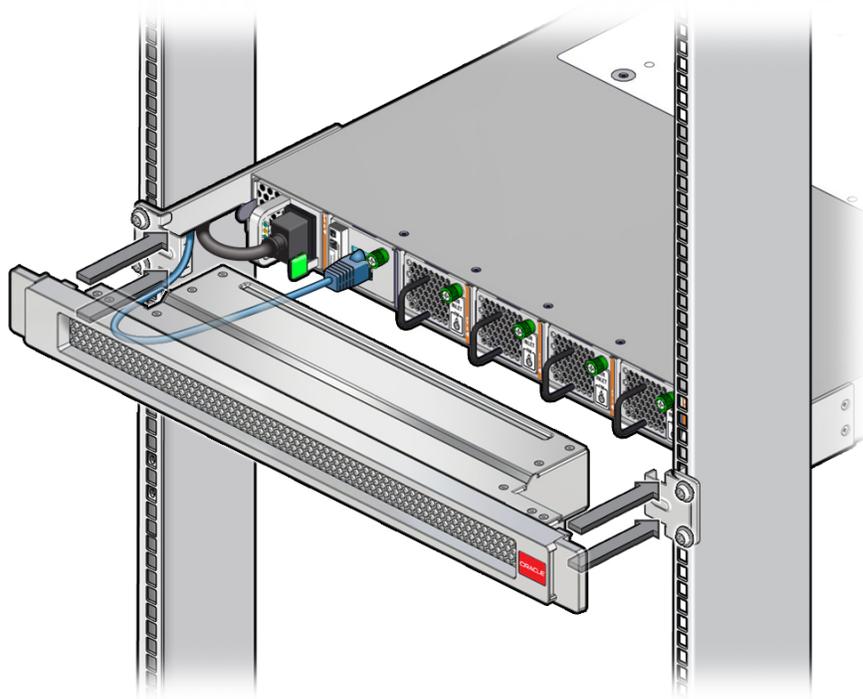
関連情報

- 68 ページの「[電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す](#)」
- 71 ページの「[SER MGT ケーブルの接続](#)」
- 74 ページの「[SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続](#)」
- 76 ページの「[エアダクト構成部品の取り付け](#)」
- 78 ページの「[スイッチの電源投入](#)」
- 79 ページの「[SP へのログイン \(SER MGT\)](#)」
- 80 ページの「[SP への静的 IP アドレスの割り当て](#)」
- 82 ページの「[SCP への静的 IP アドレスの割り当て](#)」
- 84 ページの「[SP へのログイン \(ネットワーク管理\)](#)」

▼ エアダクト構成部品の取り付け

1. このタスクとともに実行する必要のある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. 電源コードおよび **SER MGT ケーブル (接続されている場合)** が邪魔にならないように配線されていて、エアダクト構成部品の取り付けを妨げないことを確認します。
長い前面固定部品の開口部に電源コードのたるみを収めます。エアダクト構成部品のくぼみに SER MGT ケーブルのたるみを収めます。
3. エアダクト構成部品をスイッチの取り付け場所まで持ち上げます。

エアダクト構成部品は左右対称ですが、ロゴ(ある場合)は右側になります。



4. エアダクト構成部品をカチッと音がするまでスイッチの前面に押し込みます。
5. 次の手順を確認します。
 - DHCP で割り当てられた IP アドレスがある場合は、スイッチの電源を投入しません。
[78 ページの「スイッチの電源投入」](#)を参照してください。
 - SER MGT の常時接続がある場合は、スイッチの電源を投入します。
[78 ページの「スイッチの電源投入」](#)を参照してください。
 - SER MGT 接続が一時的な場合は、スイッチの設置を検証します。
[87 ページの「LED ステータスの確認」](#)を参照してください。

関連情報

- [68 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」](#)

- 71 ページの「SER MGT ケーブルの接続」
- 74 ページの「SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続」
- 74 ページの「電源コードの接続」
- 78 ページの「スイッチの電源投入」
- 79 ページの「SP へのログイン (SER MGT)」
- 80 ページの「SP への静的 IP アドレスの割り当て」
- 82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」
- 84 ページの「SP へのログイン (ネットワーク管理)」

▼ スwitchの電源投入

電力がシャーシの背面にあるコンセントに供給されると、電源装置によってスタンバイ電源および主電源が使用可能になります。スイッチはすぐに定格出力になります。SP および SCP の両方でブートプロセスが開始されます。

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. 次のことを確認してください。
 - IB ファブリックのノードおよび Ethernet ネットワークのホストが動作可能で、スイッチに確実に配線されている。
 - シリアル管理コンソールが動作可能で、正しいパラメータで構成されており、スイッチに配線されている。74 ページの「[SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続](#)」を参照してください。
 - 管理ネットワークが動作可能で、スイッチに確実に配線されている。
 - 設備の電源または配電装置が、スイッチに正しく配線されていて、使用可能で準備ができている。
 - スwitchのすべてのデータ、管理、および電源の配線が、スイッチに固定されている。
3. 設備の電源がスイッチに供給されるように、回路遮断器に通電します。
これらのアクションが順番に発生します。
 - すべてのシャーシステータス LED が点灯してから消灯します。
 - 電源装置 LED が電力の入力を示してから出力を示します。
 - ファンが最大速度で回転します。

注記 - そのあとの数分間に、ファンの速度が徐々に低下します。

- 定格出力がスイッチ内のすべての回路およびシステムに供給されます。
- SP および SCP に電源が投入されてブートします。

注記 - シリアルデバイスにブートシーケンスが表示されることがあります。

- SP の LED がゆっくり点滅します。

SP の LED の点滅が止まって点灯し、OK LED が点灯したら、SP にログインできます。

4. 次の手順を確認します。

- DHCP で割り当てられた IP アドレスがある場合は、ネットワーク経由で SP にログインします。
84 ページの「[SP へのログイン \(ネットワーク管理\)](#)」を参照してください。
- それ以外の場合は、SER MGT ポート経由で SP にログインします。
79 ページの「[SP へのログイン \(SER MGT\)](#)」を参照してください。

関連情報

- 68 ページの「[電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す](#)」
- 71 ページの「[SER MGT ケーブルの接続](#)」
- 74 ページの「[SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続](#)」
- 74 ページの「[電源コードの接続](#)」
- 76 ページの「[エアダクト構成部品の取り付け](#)」
- 79 ページの「[SP へのログイン \(SER MGT\)](#)」
- 80 ページの「[SP への静的 IP アドレスの割り当て](#)」
- 82 ページの「[SCP への静的 IP アドレスの割り当て](#)」
- 84 ページの「[SP へのログイン \(ネットワーク管理\)](#)」

▼ SP へのログイン (SER MGT)

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。
2. シリアル管理デバイスで、Return キーまたは Enter キーを何回か押して、接続を同期させます。
ログインプロンプトが表示されます。

```
hostname login:
```

ここで、*hostname* は SP のホスト名です。ホスト名が割り当てられていない場合は、ORACLESP-unknown が表示されることがあります。

3. SP にログインします。

```
hostname login: root
Password: changeme
->
```

-> プロンプトが表示されます。

注記 - パスワードはあとで変更できます。『Oracle EDR InfiniBand Switch および仮想 I/O システム管理ガイド』の管理者パスワードの変更に関する項を参照してください。

4. 次のタスクを確認します。

- SER MGT の常時接続がある場合は、[87 ページの「LED ステータスの確認」](#)または [80 ページの「SP への静的 IP アドレスの割り当て」](#)に進みます。
- SER MGT 接続が一時的でしかない場合は、[80 ページの「SP への静的 IP アドレスの割り当て」](#)に進みます。

関連情報

- [68 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」](#)
- [71 ページの「SER MGT ケーブルの接続」](#)
- [74 ページの「SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続」](#)
- [74 ページの「電源コードの接続」](#)
- [76 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」](#)
- [78 ページの「スイッチの電源投入」](#)
- [80 ページの「SP への静的 IP アドレスの割り当て」](#)
- [82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」](#)
- [84 ページの「SP へのログイン \(ネットワーク管理\)」](#)

▼ SP への静的 IP アドレスの割り当て

スイッチは SP に DHCP の IP アドレスが割り当てられた状態で出荷されます。

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
[11 ページの「設置タスクの概要」](#)を参照してください。

2. Oracle ILOM CLI にアクセスします。

79 ページの「SP へのログイン (SER MGT)」を参照してください。

3. ネットワーク管理パラメータを構成します。

```
-> set /SP/network property=value property=value ...
```

ここでは:

- *property* は構成するネットワークのパラメータです。
- *value* は構成する *property* の値です。

これらのプロパティがサポートされています。

- *pendingipaddress - value* は構成する SP の IP アドレスです。
- *pendingipdiscovery - value* は構成する IP 検出の方法です (static または dhcp)。
- *pendingipgateway - value* は構成するルーティングゲートウェイの IP アドレスです。
- *pendingipnetmask - value* は構成するネットマスクです。

注記 - 1 つのコマンド行で、1 つ、複数、またはすべてのプロパティを構成できます。

例:

```
-> set /SP/network pendingipdiscovery=static pendingipaddress=123.45.67.89
pendingipgateway=123.45.67.1 pendingipnetmask=255.255.255.0
Set 'pendingipdiscovery' to 'static'
Set 'pendingipaddress' to '123.45.67.89'
Set 'pendingipgateway' to '123.45.67.1'
Set 'pendingipnetmask' to '255.255.255.0'
->
```

4. 変更を確定します。

```
-> set /SP/network commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'
->
```

静的 IP アドレスは 123.45.67.89 に構成されました。背面パネルのいずれかの RJ-45 コネクタから SP を管理できるようになりました。

5. 次の手順を確認します。

- SCP の静的 IP アドレスを構成します。
82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」を参照してください。
- 管理ネットワークを介して SP にログインします。
84 ページの「SP へのログイン (ネットワーク管理)」を参照してください。

関連情報

- 68 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」
- 71 ページの「SER MGT ケーブルの接続」
- 74 ページの「SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続」
- 74 ページの「電源コードの接続」
- 76 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」
- 78 ページの「スイッチの電源投入」
- 79 ページの「SP へのログイン (SER MGT)」
- 82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」
- 84 ページの「SP へのログイン (ネットワーク管理)」

▼ SCP への静的 IP アドレスの割り当て

スイッチは SCP に DHCP の IP アドレスが割り当てられた状態で出荷されます。

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。

11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。

2. **Oracle ILOM CLI にアクセスします。**

79 ページの「[SP へのログイン \(SER MGT\)](#)」または 84 ページの「[SP へのログイン \(ネットワーク管理\)](#)」を参照してください。

3. **ホストコンソールを起動します。**

```
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type ESC (
```

4. **Enter キーを押します。**

```
Oracle Linux Server release 6.6
Kernel 4.0.4-15.el6uek.x86_64 on an x86_64
hostname login:
```

5. **root ユーザーとしてログインします。**

```
hostname login: root
Password:password
Last login: Fri May 25 09:51:36 on ttyS0
[root@hostname ~]#
```

デフォルトの `password` は `changeme` です。

6. **SCP IP アドレスを設定します。**

```
[root@hostname ~]# nm3tool ipaddress SCP_IP_address|dhcp|ilom
```

ここで、*SCP_IP_address* は SCP に割り当てられる IP アドレスです。あるいは、DHCP または Oracle ILOM による IP アドレスの割り当てを構成できます。静的 IP アドレスを指定する場合は、管理ネットワークゲートウェイのネットマスクと IP アドレスも指定する必要があります。例:

```
[root@hostname ~]# nm3tool ipaddress 123.45.67.90
Enter netmask: 255.255.255.0
Enter default gateway: 123.45.67.1
Restart network now? (Y/n)
```

7. ネットワークを再起動して新しい値を使用します。

```
Restart network now? (Y/n)Y
Shutting down interface eth0: [ OK ]
Shutting down interface eth1: [ OK ]
Shutting down loopback interface: [ OK ]
Bringing up loopback interface: [ OK ]
Bringing up interface eth0:
Determining IP information for eth0... done.
[ OK ]
Bringing up interface eth1: Determining if ip address 169.254.2.1 is already in use for
device eth1...
[ OK ]
```

```
[root@hostname ~]#
```

8. (オプション) ホスト名を設定します。

新しいホスト名を指定します。例:

```
[root@hostname ~]# nm3tool hostname hostname
```

ここで、*hostname* は SCP のホスト名です。例:

```
[root@hostname ~]# nm3tool hostname hostwiththemost
[root@hostname ~]#
```

9. 変更を適用します。

```
[root@hostname ~]# nm3tool apply
Setting network configuration from XML
[root@hostname ~]#
```

10. 管理ネットワークを介して SP にログインします。

84 ページの「SP へのログイン (ネットワーク管理)」を参照してください。

関連情報

- 68 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」
- 71 ページの「SER MGT ケーブルの接続」
- 74 ページの「SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続」
- 74 ページの「電源コードの接続」
- 76 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」
- 78 ページの「スイッチの電源投入」
- 79 ページの「SP へのログイン (SER MGT)」

- 80 ページの「SP への静的 IP アドレスの割り当て」
- 84 ページの「SP へのログイン (ネットワーク管理)」

▼ SP へのログイン (ネットワーク管理)

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
11 ページの「設置タスクの概要」を参照してください。

2. **SSH セッションを開き、以前に構成した IP アドレスを指定することによって SP に接続します。**
たとえば、次のように入力します。

```
% ssh -l root IP_address  
password: password  
->
```

ここで、*IP_address* は SP の IP アドレスです。初期のパスワードは *changeme* です。

注記 - パスワードはあとで変更できます。手順については、『*Oracle EDR InfiniBand Switch* および仮想 *I/O* システム管理ガイド』の root ユーザーのパスワードの変更に関する項を参照してください。

Oracle ILOM シェルのプロンプト (->) が表示されます。

3. 次の手順を確認します。
 - **DHCP** で割り当てられたアドレスがある場合は、スイッチの設置を検証します。
87 ページの「**LED ステータスの確認**」を参照してください。
 - **SER MGT** の常時接続がある場合は、スイッチの設置を検証します。
87 ページの「**LED ステータスの確認**」を参照してください。
 - **SER MGT** 接続が一時的な場合は、**SER MGT** ケーブルを外して、エアダクト構成部品を取り付けます。
76 ページの「**エアダクト構成部品の取り付け**」を参照してください。

関連情報

- 68 ページの「電源コードおよび SER MGT ケーブルを引き出す」
- 71 ページの「SER MGT ケーブルの接続」
- 74 ページの「SER MGT ポートへのシリアル管理デバイスの接続」
- 74 ページの「電源コードの接続」

- 76 ページの「エアダクト構成部品の取り付け」
- 78 ページの「スイッチの電源投入」
- 79 ページの「SP へのログイン (SER MGT)」
- 80 ページの「SP への静的 IP アドレスの割り当て」
- 82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」

機能の検証

これらのトピックでは、スイッチの機能を検証する方法について説明します。

- [87 ページの「LED ステータスの確認」](#)
- [88 ページの「LED ステータス」](#)
- [89 ページの「スイッチが動作可能であることの確認」](#)
- [91 ページの「接続の検証」](#)
- [94 ページの「Oracle Fabric Manager インタフェースへのログイン」](#)
- [95 ページの「Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン」](#)
- [96 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行」](#)
- [97 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードのパラメータ」](#)

関連情報

- [11 ページの「スイッチの理解」](#)
- [17 ページの「仕様の確認」](#)
- [23 ページの「設置の準備」](#)
- [29 ページの「スイッチの設置」](#)
- [49 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [67 ページの「スイッチの電源投入」](#)

▼ LED ステータスの確認

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
[11 ページの「設置タスクの概要」](#)を参照してください。
2. スイッチで、各種のシャーシおよびコンポーネントの LED の状態を確認します。
 - シャーシステータス LED
 - 電源装置 LED
 - ファンモジュールの LED
 - SFP+ ソケット LED

- RJ-45 ソケット LED

注記 - 電源装置またはファンモジュールの LED が点灯している場合は、エアダクト構成部品越しに確認できます。

3. LED の状態を記載されているステータスと比較します。
88 ページの「LED ステータス」を参照してください。
4. スイッチが動作していることを確認します。
89 ページの「スイッチが動作可能であることの確認」を参照してください。

関連情報

- 88 ページの「LED ステータス」
- 89 ページの「スイッチが動作可能であることの確認」
- 91 ページの「接続の検証」
- 94 ページの「Oracle Fabric Manager インタフェースへのログイン」
- 95 ページの「Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン」
- 96 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行」
- 97 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードのパラメータ」

LED ステータス

シンボル	名前	色	状態および意味
シャーシのステータス			
	位置特定	白色	これらの状況を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 点灯 – 機能していません。 ■ 速い点滅 – スイッチが自身を識別しています。 ■ 消灯 – 無効になっています。
	アテンション	オレンジ色	これらの状況を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 点灯 – 障害が検出されました。 ■ 消灯 – 障害は検出されていません。
	OK	緑色	これらの状況を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 点灯 – スイッチが障害なく機能しています。 ■ 消灯 – スイッチはオフであるか、初期化中です。
SP	SP	緑色	これらの状況を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 点灯 – SP は準備ができています。 ■ ゆっくり点滅 – SP がブートしています。

シンボル	名前	色	状態および意味
<ul style="list-style-type: none"> ■ 消灯 – SP は電源がオフであるか、リセットされたか、障害があります。 			
ケーブルのステータス			
	リンク	緑色	これらの状況を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 点灯 – リンクが動作しています。 ■ 断続的な点滅 – リンク上でアクティビティが発生しています。 ■ 消灯 – リンクが停止しています。
電源装置のステータス			
	OK	緑色	これらの状況を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 点灯 – 12 VDC が供給されています。 ■ 消灯 – DC 電圧が見つかりません。
	アテンション	オレンジ色	これらの状況を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 点灯 – 障害が検出され、12 VDC が停止しています。 ■ 消灯 – 障害は検出されていません。
~ AC	AC	緑色	これらの状況を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 点灯 – AC 電源が存在し、良好です。 ■ 消灯 – AC 電源が見つかりません。
ファンモジュールのステータス			
	アテンション	オレンジ色	これらの状況を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 点灯 – 障害が検出されました。 ■ 消灯 – 障害は検出されていません。

関連情報

- [87 ページの「LED ステータスの確認」](#)
- [89 ページの「スイッチが動作可能であることの確認」](#)
- [91 ページの「接続の検証」](#)
- [94 ページの「Oracle Fabric Manager インタフェースへのログイン」](#)
- [95 ページの「Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン」](#)
- [96 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行」](#)
- [97 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードのパラメータ」](#)

▼ スwitchが動作可能であることの確認

1. このタスクとともに実行する必要のある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。
[11 ページの「設置タスクの概要」](#) を参照してください。

2. **Oracle ILOM CLI にアクセスします。**

79 ページの「[SP へのログイン \(SER MGT\)](#)」または 84 ページの「[SP へのログイン \(ネットワーク管理\)](#)」を参照してください。

3. **スイッチの健全性を確認します。**

```
-> show /System -t health
Target                                     | Property | Value
-----+-----+-----
/System                                    | health   | OK
/System/Power                              | health   | OK
/System/Power/Power_Supplies/Power_Supply_0 | health   | OK
/System/Power/Power_Supplies/Power_Supply_1 | health   | OK
/System/Cooling                             | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_0                  | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_1                  | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_2                  | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_3                  | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_4                  | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_5                  | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_6                  | health   | OK
/System/Cooling/Fans/Fan_7                  | health   | OK
/System/Networking                          | health   | OK
/System/Networking/Switches/Switch_0        | health   | OK
/System/Networking/Switches/Switch_1        | health   | OK
->
```

4. **ターゲットの health 値が OK 以外の場合は、原因を調査します。**

スイッチサービスの「[障害の検出と管理](#)」を参照してください。

5. **未解決の問題を特定します。**

```
-> show /System/Open_Problems
Open Problems (0)
Date/Time          Subsystems          Component
-----+-----+-----
->
```

6. **未解決の問題が検出された場合は、その問題を調査します。**

スイッチサービスの「[障害の検出と管理](#)」を参照してください。

7. **IB ファブリックおよび Ethernet ネットワークへのスイッチの接続を検証します。**

91 ページの「[接続の検証](#)」を参照してください。

関連情報

- [87 ページの「LED ステータスの確認」](#)
- [88 ページの「LED ステータス」](#)
- [91 ページの「接続の検証」](#)
- [94 ページの「Oracle Fabric Manager インタフェースへのログイン」](#)
- [95 ページの「Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン」](#)
- [96 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行」](#)
- [97 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードのパラメータ」](#)

▼ 接続の検証

1. このタスクとともに実行する必要がある、前提条件およびそのあとの設置タスクを確認します。

11 ページの「[設置タスクの概要](#)」を参照してください。

2. スイッチの近くにいる場合は、SFP+ コネクタおよび RJ-45 コネクタのリンク LED を確認します。

リンク LED の状態の説明については、88 ページの「[LED ステータス](#)」を参照してください。

3. Oracle ILOM CLI にアクセスします。

79 ページの「[SP へのログイン \(SER MGT\)](#)」または 84 ページの「[SP へのログイン \(ネットワーク管理\)](#)」を参照してください。

4. Ethernet 接続を確認します。

- a. EMS コンソールを起動します。

```
-> start /System/Networking/Switches/Switch_0/fs_cli
Are you sure you want to start /System/Networking/Switches/Switch_0/fs_cli
(y/n)? y
Management Switch for Oracle InfiniBand Switch IS2-46
SEFOS login:
```

- b. SEFOS にログインします。

```
SEFOS login: root
Password: password
SEFOS#
```

デフォルトのパスワードは admin123 です。

- c. Ethernet ポートの状態を表示します。

```
SEFOS# show interfaces status
```

Port	Status	Duplex	Speed	Negotiation	Capability
Gi0/1	not connected	Half	-	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/2	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/3	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/4	not connected	Half	-	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/5	not connected	Half	-	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/6	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/7	not connected	Half	-	Auto	Auto-MDIX on
...					
Gi0/13	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
...					
Gi0/23	not connected	Half	-	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/23	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/25	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
Gi0/26	connected	Full	1 Gbps	Auto	Auto-MDIX on
Ex0/1	not connected	Full	10 Gbps	No-Negotiation	Auto-MDIX on

```
Ex0/2      not connected   Full    10 Gbps    No-Negotiation Auto-MDIX on
SEFOS#
```

この出力で、Port は背面パネルにあるポートです。ポート Gi0/25 および Gi0/26 は、スイッチアーキテクチャーの内部用です。ポート Ex0/1 および Ex0/2 は 2 つの SFP+ アップリンクポートです。Status はポートの状態です。Duplex、Speed、および Negotiation はリンクのパラメータです。Capability は自動クロスオーバー機能がオンであるかどうかを示しています。

- d. 既知の接続済みのポートのステータスが **connected** 以外の場合は、原因を調査してください。

EMS モジュールのドキュメントを参照してください。

- e. **EMS コンソールを終了します。**

```
SEFOS# exit
Connection closed by foreign host

Entering character mode
Escape character is '^]'.
start: The session with /System/Networking/Switches/Switch_0/fs_cli has ended.
->
```

5. **IB およびゲートウェイの接続を確認します。**

- a. **ホストコンソールを起動します。**

```
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y

Serial console started. To stop, type ESC (
```

- b. **Enter を押します。**

```
[user@hostname ~]#
```

ここでは:

- *user* は現在のユーザー名です。
- *hostname* は SCP のホスト名です。

- c. **パスワード `admin` を使用してユーザー `admin` に切り替えます。**

```
[user@hostname ~]# su admin
Welcome to IBOS Controller
Copyright (c) 2012-2015 Oracle Corp. All rights reserved.
Enter "help" for information on available commands.
Enter the command "show system copyright" for licensing information
admin@hostname[0FOS]
```

注記 - このドキュメントではこれ以降、`admin@hostname[0FOS]` プロンプトを簡単に `[0FOS]` で置き換えています。

これが Oracle Fabric OS へのはじめてのアクセスである場合は、Oracle Fabric OS 構成ウィザードが起動することがあります。この状態が発生した場合は、[96 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行」](#)を参照してください。

d. ゲートウェイのポートの状態を表示します。

```
[OFOS] show ioport
name      type                state                descr                v-resources
-----
0/1       gwEthernet10GbPort  up/indeterminate    0                    0
0/2       gwEthernet10GbPort  up/indeterminate    0                    0
0/3       gwEthernet10GbPort  up/indeterminate    0                    0
0/4       gwEthernet10GbPort  up/indeterminate    0                    0
0/5       gwEthernet10GbPort  up/indeterminate    0                    0
0/6       gwEthernet10GbPort  up/indeterminate    0                    0
0/7       gwEthernet10GbPort  up/indeterminate    0                    0
0/8       gwEthernet10GbPort  up/indeterminate    0                    0
8 records displayed
[OFOS]
```

この出力で、name は背面パネルにあるポート番号です。state はローカルポート/ピアポートの状態です。descr はピアポートのノード記述子です。v-resources は、そのポートでサポートされている VLAN および VNIC の数です。

e. IB ポートの状態を表示します。

```
[OFOS] show infiniband-port
name      state                mode_state           guid
-----
0/1       up/down             switching             0
0/2       up/down             switching             0
0/3       up/down             switching             0
0/4       up/down             switching             0
.
.
.
0/27      up/down             switching             0
0/28      up/down             switching             0
0/29      up/down             switching             0
0/30      up/down             switching             0
30 records displayed
[OFOS]
```

この出力で、name は背面パネルにあるポート番号です。state はローカルポート/ピアポートの状態です。mode_state はリンクの状態です。guid はピアポートの GUID です。

f. これらのコマンドの出力で、ポートが down 状態として示されている場合、またはリンク mode_state が switching 以外の場合は、原因を調査します。

詳細は、Oracle Fabric OS のドキュメントを参照してください。

g. ホストコンソールを終了します。

exit と入力して Enter キーを押し、Esc キーを押して (と入力します。

```
[OFOS] exit
[root@nsn156-168 ~]#
Serial console stopped.
->
```

6. **Oracle Fabric Manager** または **Oracle Fabric OS** からスイッチを管理します。
94 ページの「[Oracle Fabric Manager インタフェースへのログイン](#)」または
95 ページの「[Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン](#)」を参照してください。

関連情報

- [87 ページの「LED ステータスの確認」](#)
- [88 ページの「LED ステータス」](#)
- [89 ページの「スイッチが動作可能であることの確認」](#)
- [94 ページの「Oracle Fabric Manager インタフェースへのログイン」](#)
- [95 ページの「Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン」](#)
- [96 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行」](#)
- [97 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードのパラメータ」](#)

▼ Oracle Fabric Manager インタフェースへのログイン

1. 管理ネットワークに接続されているホストから、**Web ブラウザ**を起動します。
2. **Oracle Fabric Manager** にログインします。

```
https://SCP_IP_address:8443/xms
```

ここで、*SCP_IP_address* は [82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」](#) で構成した SCP の IP アドレスです。

Oracle Fabric Manager のログインページが表示されます。

3. **Oracle Fabric Manager** 管理者のユーザー名とパスワードを入力します。
デフォルトのユーザー名は root、パスワードは changeme です。
4. ドロップダウンメニューから言語を選択して、「**Log In**」をクリックします。
Fabric Manager のダッシュボードが表示されます。
5. 「**Navigation**」ペインで、「**Managed Devices**」フォルダを開いて、「**Discovery Devices**」をクリックします。
6. デバイスのリストでスイッチを見つけて、それを強調表示します。
7. チェックマークアイコンをクリックします。

8. ユーザー名とパスワードを入力し、「Submit」をクリックします。
デフォルトのユーザー名は admin、パスワードは admin です。
「Discovery Devices」ペインが更新され、「Manage Status」列に緑色の円のチェックマークが付いている場合は、スイッチを管理できることを示しています。
9. 「Navigation」ペインで、「General」フォルダを開いて、「Dashboard」をクリックします。
「Navigation」ペインおよび Fabric Manager ダッシュボードが、追加機能が加えられてリロードされます。
10. Oracle Fabric Manager 経由でスイッチを管理できるようになりました。
詳細な手順については、Oracle Fabric Manager のドキュメントを参照してください。

関連情報

- [87 ページの「LED ステータスの確認」](#)
- [88 ページの「LED ステータス」](#)
- [89 ページの「スイッチが動作可能であることの確認」](#)
- [91 ページの「接続の検証」](#)
- [95 ページの「Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン」](#)
- [96 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行」](#)
- [97 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードのパラメータ」](#)

▼ Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン

Oracle Fabric OS インタフェースにはじめてログインすると、Oracle Fabric OS 構成ウィザードが起動します。

1. 管理ネットワークに接続されているホストから、SSH セッションを起動します。

```
$ ssh user@SCP_IP_address
user@SCP_IP_address's password: password
Last login: Wed Jun 13 22:50:04 2012 from sca-ss-01.us.oracle.com

Welcome to OFOS Controller
Copyright (c) 2012-2015 Oracle Corp. All rights reserved.
Enter "help" for information on available commands.
Enter the command "show system copyright" for licensing information
user@hostname[OFOS]
```

ここでは:

- *user* は、Oracle Fabric OS 管理者のユーザー名です。デフォルトは admin です。
- *password* は、Oracle Fabric OS 管理者のパスワードです。デフォルトは admin です。

- `SCP_IP_address` は 82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」で構成した IP アドレスです。
- `hostname` は 82 ページの「SCP への静的 IP アドレスの割り当て」で構成したホスト名です。

2. 次の手順を確認します。

- これが Oracle Fabric OS へのはじめてのログインである場合は、Oracle Fabric OS 構成ウィザードが自動的に実行されます。
96 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行」を参照してください。
- それ以外の場合は、Oracle Fabric OS 経由でスイッチを管理できるようになりました。
詳細な手順については、Oracle Fabric OS のドキュメントを参照してください。

関連情報

- 87 ページの「LED ステータスの確認」
- 88 ページの「LED ステータス」
- 89 ページの「スイッチが動作可能であることの確認」
- 91 ページの「接続の検証」
- 94 ページの「Oracle Fabric Manager インタフェースへのログイン」
- 96 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行」
- 97 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードのパラメータ」

▼ Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行



注意 - Oracle Fabric OS 構成ウィザードを実行すると、データが破棄されます。手動でウィザードを実行している場合は、続行する前に構成データをバックアップすることを確認してください。

1. 最初の手順を確認します。

- Oracle Fabric OS 構成ウィザードが自動的に起動された場合は、**ステップ 2**に進みます。
- Oracle Fabric OS 構成ウィザードを手動で実行する場合は、Oracle Fabric OS プロンプトで次のように入力します。

```
[OFOS] system clear config
This is a destructive operation. Your configuration will be cleared and the
system will be restarted. Please type 'confirm' to clear the configuration and
```

```
restart the system.
> confirm
```

2. **Oracle Fabric OS 構成ウィザードで要求されるパラメータを確認します。**
97 ページの「[Oracle Fabric OS 構成ウィザードのパラメータ](#)」を参照してください。
3. **Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行を許可します。**
「Y」と入力します。
4. **ウィザードで要求された質問に答えます。**
完了すると、ウィザードによって Oracle Fabric OS がリブートされます。
5. **新しく構成された値を使用して Oracle Fabric OS にログインします。**
95 ページの「[Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン](#)」を参照してください。

関連情報

- [87 ページの「LED ステータスの確認」](#)
- [88 ページの「LED ステータス」](#)
- [89 ページの「スイッチが動作可能であることの確認」](#)
- [91 ページの「接続の検証」](#)
- [94 ページの「Oracle Fabric Manager インタフェースへのログイン」](#)
- [95 ページの「Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン」](#)
- [97 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードのパラメータ」](#)

Oracle Fabric OS 構成ウィザードのパラメータ

パラメータ	値
What type of switch is this?	表示された項目から選択
Do you want to enable a strong password configuration?	Yes/No
If yes, what is the minimum number of characters in the password?	1 - 8
If yes, what is the minimum number of lower case letters in the password?	1 - 8
If yes, what is the minimum number of digits in the password?	1 - 8
If yes, what is the minimum number of special characters in the password?	1 - 8
If yes, what is the minimum number of upper case letters in the password?	1 - 8
What is the password for the admin user?	admin パスワードを入力します
What is the OSDN MAC address?	表示された項目から選択

関連情報

- [87 ページの「LED ステータスの確認」](#)
- [88 ページの「LED ステータス」](#)
- [89 ページの「スイッチが動作可能であることの確認」](#)
- [91 ページの「接続の検証」](#)
- [94 ページの「Oracle Fabric Manager インタフェースへのログイン」](#)
- [95 ページの「Oracle Fabric OS インタフェースへのログイン」](#)
- [96 ページの「Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行」](#)

用語集

1

10GBASE-T – LR 300 m を超える配線距離をサポートする Ethernet テクノロジー。

10GBASE-T – SR 標準 10GbE Ethernet テクノロジー。

10GbE/40GbE モジュール 10GbE および 40GbE インタフェースをサポートする Oracle Fabric Interconnect F2-12 の I/O モジュール。

16G ファイバチャネルモジュール ファイバチャネルインタフェースをサポートする Oracle Fabric Interconnect F2-12 の I/O モジュール。

A

アダプタ ホストがファブリックまたはネットワーク経由で通信できる物理デバイス (HCA、NIC など)。

AD Active Directory の省略形。

ASR Automatic Service Request (自動保守要求)。特定のハードウェア障害が発生した場合に自動的に保守要求を開く Oracle ハードウェアの機能。ASR は My Oracle Support (MOS) と統合されており、サポート契約が必要です。「MOS」も参照してください。

C

CFM Cubic Feet per Minute (立方フィート/分)。通気の測定の標準。

CMB Cable Management Bracket (ケーブル管理留め具) の省略形。シャーシから伸びるケーブルを支え、1 つにまとめるコンポーネント。

D

DN Distinguished Name (識別名) の省略形。Active Directory の用語。

DSA 鍵 Digital Signature Algorithm (デジタル署名アルゴリズム) 鍵。SSH 認証のコンポーネント。「RSA」および「SSH」も参照してください。

E

EDR Extended Data Rate (拡張データレート)。InfiniBand (IB) テクノロジーのスループット (通常は 100G ビット/秒)。「IB」も参照してください。

EMS モジュール Embedded Management Switch モジュール。SEFOS オペレーティングシステムを使用して Ethernet スイッチおよび管理コントローラを提供するスイッチシャーシ内のコンポーネント。「SEFOS」も参照してください。

Ethernet 管理スイッチ 複数のサービスプロセッサ (SP) またはホストの、各ネットワーク管理インタフェースを経由したシングルポイント管理を可能にする Ethernet スイッチ。「SP」も参照してください。

Ethernet ゲートウェイ あるプロトコルから別のプロトコル (たとえば、IB から Ethernet) へのデータ転送を可能にするデバイス。または、Ethernet ネットワークのルーティングノードとして機能するデバイス。

F

ファイバチャネル 主にストレージシステムに対して使用されるデータ転送テクノロジー。

ファブリックインターコネクト ゲートウェイサービスおよび追加機能を提供する IB スイッチの短縮名。

ファブリックカード スパイントポロジ構造を提供する IB スイッチシャーシのコンポーネント。「IB SFM モジュール」も参照してください。

ファンモジュール シャーシの内部に冷却空気を供給するホットスワップ対応の交換可能コンポーネント。

FM Fan Module (ファンモジュール) の省略形。「ファンモジュール」も参照してください。

G

- GB** GigaByte (G バイト) の省略形。1G バイトは約 1000M バイトです。
- GbE** Gigabit Ethernet の省略形。Ethernet テクノロジーでのスループットの単位。
- GUID** Globally Unique Identifier (一意のグローバル識別子)。IB ノードを一意に識別する 32 桁の 16 進数。「IB」も参照してください。

H

- ハウジング** PrizmMT コネクタの色付きのプラスチック部分 (4x の場合はマゼンタ、12x の場合は黒)。これは収納としてではなく、解除装置として機能しますが、製造元の USConec によって「ハウジング」という用語が割り当てられました。
- HCA** Host Channel Adapter (ホストチャネルアダプタ)。サーバーやホストなどのコンピューティングインスタンスで使用される、IB ノードの終端ポイントである物理デバイス。

I

- I/O モジュール** Oracle Fabric Interconnect F2-12 および Oracle InfiniBand Switch IS2-254 のユーザー交換可能な物理インタフェースコンポーネント。
- I²C** IPMI プロトコルを使用して I²C ノードに問い合わせたり、影響を与えたりするハードウェアバス。「IPMI」および「Oracle ILOM」も参照してください。
- IB** InfiniBand。非常に高性能なコンピューティングに使用される、高帯域幅のメッセージングテクノロジー。
- IB SFM モジュール** スパイントポロジ構造を提供する Oracle InfiniBand Switch IS2-254 の I/O モジュール。IB SLM モジュールと組み合わせて使用されます。「ファブリックカード」および「IB SLM モジュール」も参照してください。
- IB SLM モジュール** リーフポロジ構造を提供する Oracle InfiniBand Switch IS2-254 の I/O モジュール。IB SFM モジュールと組み合わせて使用されます。「ラインカード」および「IB SFM モジュール」も参照してください。
- IB スイッチ** IB ファブリック内のノード間の接続を提供する物理デバイス。
- ILOM** 「Oracle ILOM」を参照してください。
- IPMI** Intelligent Platform Management Interface (インテリジェントプラットフォーム管理インタフェース)。I²C バス経由でシャーシコンポーネントをモニターおよび制御するためのプロトコル。

K

KVMS Keyboard (キーボード)、Video (ビデオ)、Mouse (マウス)、および Storage (ストレージ) の省略形。ホストのリモート操作を提供する手段。

L

長距離 IB モジュール QDR IB のスループットを最大 40 km の距離にわたってサポートする Oracle Fabric Interconnect F2-12 の I/O モジュール。

ラインカード リーフトポロジ構造を提供する IB スイッチシャーシのコンポーネント。「IB SLM モジュール」も参照してください。

リーフスイッチ リーフトポロジを利用したスイッチ。

LDAP Lightweight Directory Access Protocol。IP 経由のディレクトリサービスを提供するためのプロトコル。

LDAP over SSL Secure Sockets Layer トンネル経由で LDAP をセキュリティー保護するスキーム。「LDAP」も参照してください。

LR IB IOM QDR IB のスループットを最大 40 km の距離にわたってサポートする Oracle Fabric Interconnect F2-12 の I/O モジュール。

LR トランシーバ 長距離のファイバチャネル通信に使用されるトランシーバ。

M

モジュール ユーザーが交換できるシャーシのコンポーネント。通常は外部からアクセスできません。「I/O モジュール」および「ファンモジュール」も参照してください。

MAC Machine Allocation Code。ネットワークノードを一意に識別する 12 桁の 16 進数。

MIB Management Information Base (管理情報ベース)。オブジェクト識別子 (OID) の集合を含むプレーンテキストファイル。SNMP プロトコルを使用してスイッチを管理する場合に使用されます。「OID」および「SNMP」も参照してください。

MOS My Oracle Support (<http://support.oracle.com>)

N

ネットワーク管理 Ethernet ネットワークを使用して SP または SCP を管理するための手段。「シリアル管理」、「SP」、および「SCP」も参照してください。

O

OID	Object Identifier (オブジェクト識別子)。特定の目的に対応しており、かつ SNMP プロトコルによって解釈されるパラメータを持つ MIB のコンポーネント。「MIB」および「SNMP」も参照してください。
Oracle F2 10 Gb および 40Gb Ethernet モジュール	10GbE または 40GbE の機能を提供する I/O モジュール。
Oracle F2 Dual Port 16G ファイバチャネルモジュール	16Gb ファイバチャネルの機能を提供する I/O モジュール。
Oracle F2 Long Range InfiniBand モジュール	QDR InfiniBand の機能を長距離にわたって提供する I/O モジュール。
Oracle F2 Quad Port 10GBASE-T モジュール	4 つの 10GbE インタフェースの機能を提供する I/O モジュール。
Oracle Fabric Interconnect F2-12	仮想化スイッチ。「仮想化スイッチ」も参照してください。
Oracle Fabric Manager	スイッチおよびファブリックを管理するための Web ベースの GUI。
Oracle Fabric OS	Oracle Fabric オペレーティングシステム。ファブリックを管理する SCP 内のオペレーティングシステム。「SCP」も参照してください。
Oracle ILOM	Oracle Integrated Lights Out Manager。IPMI プロトコルと I ² C バスを使用して、シャーシのハードウェアコンポーネントをモニターおよび制御するインタフェース。
Oracle InfiniBand Switch IS2-254	スパインスイッチ。「スパインスイッチ」も参照してください。
Oracle InfiniBand Switch IS2-46	リーフスイッチ。「リーフスイッチ」も参照してください。

Oracle Linux OS Oracle Linux オペレーティングシステム。UNIX ベースのオペレーティングシステムであり、多くの場合はサービスプロセッサに組み込まれます。「SP」も参照してください。

Oracle Solaris OS Oracle Solaris オペレーティングシステム。UNIX ベースのオペレーティングシステムであり、通常は高性能エンタープライズコンピューティングプラットフォームに使用されます。

P

PrizmMT ケーブル IB 4x および 12x テクノロジーに使用される光ファイバコネクタおよびケーブル。PrizmMT フェルールを使用して構成されます。外観は標準 MT ケーブルおよびコネクタに似ていますが、互換性はありません。「標準 MT ケーブル」も参照してください。

Q

QSFP Quad Small Form-Factor Pluggable (クワッドスモールフォームファクタプラグブル)。高速データインターコネクタのためのフォームファクタ。

R

RADIUS Remote Authentication Dial-In User Service。ユーザーの認証、承認、およびアカウント管理を提供するプロトコル。

RJ-45 Ethernet インターコネクタのための 8 ピンモジュラーフォームファクタの標準。

RSA 鍵 Rivest Shamir Adleman アルゴリズム鍵。SSH 認証のコンポーネント。「DSA」および「SSH」も参照してください。

S

シリアル管理 シリアルデータストリームを使用して SP または SCP を管理するための手段。「SER MGT」、「ネットワーク管理」、「SP」、および「SCP」も参照してください。

スイッチ前面 ラック内に取り付けられたときに冷たい通路に面する、スイッチシャーシの吸気側の端です。通常は、ファンモジュールや電源装置が取り付けられている端です。

スイッチ背面	ラック内に取り付けられたときに熱い通路に面する、スイッチシャーシの排気側の端です。通常は、高速データ接続が取り付けられている端です。
スパインスイッチ	スパイントポロジを利用したスイッチ。
標準 MT ケーブル	IB 4x テクノロジに使用される光ファイバコネクタおよびケーブル。外観は PrizmMT ケーブルおよびコネクタに似ていますが、互換性はありません。「PrizmMT ケーブル」も参照してください。
SCP	System Control Processor (システム制御プロセッサ)。IB テクノロジ、ファブリック管理インタフェース、サブネットマネージャーなどの、より複雑で、かつリソースを大量に消費するサービスを管理するサービスプロセッサのタイプ。SCP がシャーシホストである場合もあります。「SP」も参照してください。
SEFOS	Sun Ethernet Fabric Operating System。Ethernet ネットワークを管理するために EMS モジュールによって使用されるオペレーティングシステム。「EMS モジュール」も参照してください。
SER MGT	Serial Management (シリアル管理)。SP とインタフェースするために使用される低速のシリアルデータストリーム。「SP」も参照してください。
SFP+	Small Form-Factor Pluggable (スモールフォームファクタプラグブル)。高速データインターコネクタのためのフォームファクタ。
SNMP	Simple Network Management Protocol。スイッチをリモートでモニターおよび制御するためのマシンインタフェース。MIB および OID を使用して、データまたは命令を含むメッセージを交換します。「MIB」および「OID」も参照してください。
SP	Service Processor (サービスプロセッサ)。シャーシホストの状態には関係なく、Oracle ILOM インタフェース経由でシャーシをモニターおよび制御するデバイス。「Oracle ILOM」および「SCP」も参照してください。
SR トランシーバ	短距離のファイバチャネル通信に使用されるトランシーバ。
SSH	Secure Shell。DSA および RSA アルゴリズムを利用したセキュアなネットワーク通信プロトコル。「DSA」および「RSA」も参照してください。
V	
仮想化スイッチ	仮想化機能を持つ複数のインタフェースをサポートしているスイッチ。
VAC	Voltage Alternating Current (交流電圧)。
VDC	Voltage Direct Current (直流電圧)。

W

- WWN** World Wide Name。ファイバチャネルおよびその他のストレージインタフェースデバイスに使用される識別子。
- WWNN** World Wide Node Name。ノード専用のファイバチャネル名。
- WWPN** World Wide Port Name。ポート専用のファイバチャネル名。

索引

あ

- アイコン、LED, 88
- エアダクト
 - 組み立て, 33
 - 準備, 33
 - 取り付け, 76
- エアダクトの準備, 33

か

- 概要
 - スイッチ, 13
 - 設置, 11
- 環境仕様, 18
- 組み立て
 - エアダクト, 33
 - ケーブル, 54
 - ケーブル管理エクステンダ, 32
- ケージナット, 35
- ケーブル
 - CMB に固定, 62
 - PrizmMT, 50
 - SFP+, 54
 - 組み立て, 54
 - 接続, 49
 - 違い, 50
 - 注意事項, 52
 - 配線, 56
 - 引き出し, 68
 - 標準 MT, 50
 - 要件, 49
- 検証
 - LED ステータス, 87
 - 機能, 87
 - スイッチ
 - 接続, 91

- 動作, 89

- 工具、取り付け, 28
- 構成ウィザード、Oracle Fabric OS
 - 実行, 96
 - パラメータ, 97
- コンポーネント
 - 背面パネル, 15
 - フロントパネル, 14

さ

- 出荷用キット, 24
- 仕様, 17
 - 環境, 18
 - 電気, 18
 - 物理, 17
- シリアル管理デバイス, 74
- スイッチ
 - 概要, 13
 - 検証
 - 接続, 91
 - 動作, 89
 - 仕様, 17
 - 設置, 29, 40
 - 電源投入, 67, 78
 - 理解, 11
- スイッチの設置, 29
- スイッチの電源投入, 67, 78
- スイッチの理解, 11
- 静的 IP アドレス
 - SCP, 82
 - SP, 80
- 静的 IP アドレスの割り当て
 - SCP, 82
 - SP, 80
- 接続

- PrizmMT ケーブル, 58
- RJ-45 ケーブル, 57
- SER MGT ケーブル, 71
- SFP+ ケーブル, 60
- ケーブル, 49
- シリアル管理デバイス, 74
- 電源コード, 74
- 設置
 - 準備, 23
 - スイッチ, 29, 40
 - タスクの概要, 11

た

- 注意事項
 - ESD, 27
 - ケーブル, 52
 - 通気, 19
 - 取り扱い, 27
 - ラック, 20
- 通気に関する注意事項, 19
- 電気仕様, 18
- 電源コード
 - 接続, 74
 - 配線, 38
 - 引き出し, 68
- 取り扱い上の注意事項, 27
- 取り付け
 - CMB, 45
 - エアダクト, 76
 - ケージナット, 35
 - 工具, 28
 - スイッチの留め具, 30
 - ラックマウントハードウェア, 37

は

- 配線
 - SER MGT ケーブル, 39
 - ケーブル, 56
 - 電源コード, 38
- 背面パネルのコンポーネント, 15
- 標準 MT ケーブル, 50
- 物理仕様, 17
- フロントパネルコンポーネント, 14

ら

- ラック
 - 互換性, 20
 - 固定, 29
 - 注意事項, 20
- ラックマウントハードウェア, 37
- ラックを固定する, 29
- ログイン
 - Oracle Fabric Manager, 94
 - Oracle Fabric OS, 95
 - SCP
 - Oracle Fabric Manager インタフェース, 94
 - Oracle Fabric OS インタフェース, 95
 - SP
 - SER MGT, 79
 - ネットワーク管理, 84

C

- CMB
 - ケーブルの固定, 62
 - 取り付け, 45

D

- DHCP の IP アドレス
 - SCP, 26
 - SP, 26
- DHCP の IP アドレスの割り当て
 - SCP, 26
 - SP, 26

E

- ESD 注意事項, 27

L

- LED
 - アイコン, 88
 - ステータス, 88
 - ステータスの確認, 87

M

MAC ID

SCP, 25

SP, 25

MAC アドレス, 25

静的 IP アドレスの割り当て, 80

ログイン

SER MGT, 79

ネットワーク管理, 84

O

Oracle Fabric Manager, 94

Oracle Fabric OS, 95

構成ウィザードの実行, 96

構成ウィザードのパラメータ, 97

Oracle Fabric OS 構成ウィザードの実行, 96

P

PrizmMT ケーブル, 50

接続, 58

注意事項, 52

R

RJ-45 ケーブル

接続, 57

注意事項, 52

S

SCP

DHCP の IP アドレスの割り当て, 26

静的 IP アドレスの割り当て, 82

ログイン

Oracle Fabric Manager インタフェース, 94

Oracle Fabric OS インタフェース, 95

SER MGT ケーブル

接続, 71

配線, 39

引き出し, 68

SFP+ ケーブル

組み立て, 54

接続, 60

注意事項, 52

SP

DHCP の IP アドレスの割り当て, 26

